

いわき市スポーツ推進計画



～ スポーツでつながるまち いわき ～

令和3年3月

(令和3年2月3日版)



目 次

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の背景	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画の期間	2

第2章 本市のスポーツを取り巻く現状と課題

1 社会情勢等の変化	3
2 市民スポーツ活動の現状	6
3 スポーツ関係団体・事業者の現状	16
4 スポーツ施設の現状・利用実態	19
5 スポーツ大会・イベントの現状	21
6 現状から見た課題	22

第3章 計画の基本方針と目標

1 基本方針	25
2 基本目標	26

第4章 スポーツ施策の推進

<u>1 ライフステージ</u>	
生涯スポーツ活動の推進	29
<u>2 アスリート</u>	
競技スポーツの推進	31
<u>3 ノーマライゼーション</u>	
障がい者スポーツの推進	32
<u>4 ネットワーク</u>	
スポーツに関わる人・まち・情報のネットワーク強化	33
<u>5 サポーター</u>	
指導者・ボランティアの育成	34
<u>6 ハード</u>	
施設の整備・管理運営の推進	35
<u>7 スポーツツーリズム</u>	
地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進	36
<u>8 サイクルスポーツ</u>	
自転車を活用した健康増進と地域資源を活用した サイクルスポーツの推進	37

9	<u>スポーツコミッション</u>	
	スポーツ合宿・イベントの誘致による地域活性化 39
10	<u>いわきFC</u>	
	いわきFCとの連携 40
第5章	計画の進行管理	
1	スポーツ推進に向けた主体と役割 41
2	計画の進行管理体制 43
	用語の解説 44
	資料編	
1	計画策定の経緯 1
2	いわき市スポーツ推進計画検討委員会委員名簿 2
3	スポーツの実施状況等に関するアンケートの実施概要 3
4	スポーツ施設の立地状況 4
5	スポーツ施設の一覧 5
6	サイクルスポーツ関連 6

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の背景

近年、少子高齢化の進行、ライフスタイルや社会経済情勢の変化などに伴い、スポーツに対するニーズもますます多様化しています。

このような中、国においては、スポーツを取り巻く環境の変化を踏まえ、平成23年にスポーツを推進するための基本的な法律として「スポーツ基本法」を制定しました。

本法では、スポーツは世界共通の人類の文化として位置づけ、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であると規定されています。

また、平成29年3月には、スポーツ基本法の規定に基づくスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための重要な指針である「第2期スポーツ基本計画」を策定し、国における今後のスポーツ施策の具体的な方向性が示されました。

一方、本市においては、平成26年3月にスポーツ振興に関する基本的計画として「いわき市スポーツ推進基本計画」を策定し、「市民一人ひとりの健康で豊かなスポーツライフの実現」を目指し、各種スポーツ施策を推進しています。

現行の「いわき市スポーツ推進基本計画」は、令和3年3月に計画期間を終えることから、本市のスポーツを取り巻く環境の変化や市民ニーズを踏まえつつ、国の「第2期スポーツ基本計画」などとの整合を図りながら、スポーツを通じた市民の健康づくり、さらにはスポーツを通じた地域活性化やまちづくりを目指して、今後のスポーツ施策を総合的かつ計画的に推進するため、新たに「いわき市スポーツ推進計画」を策定するものです。

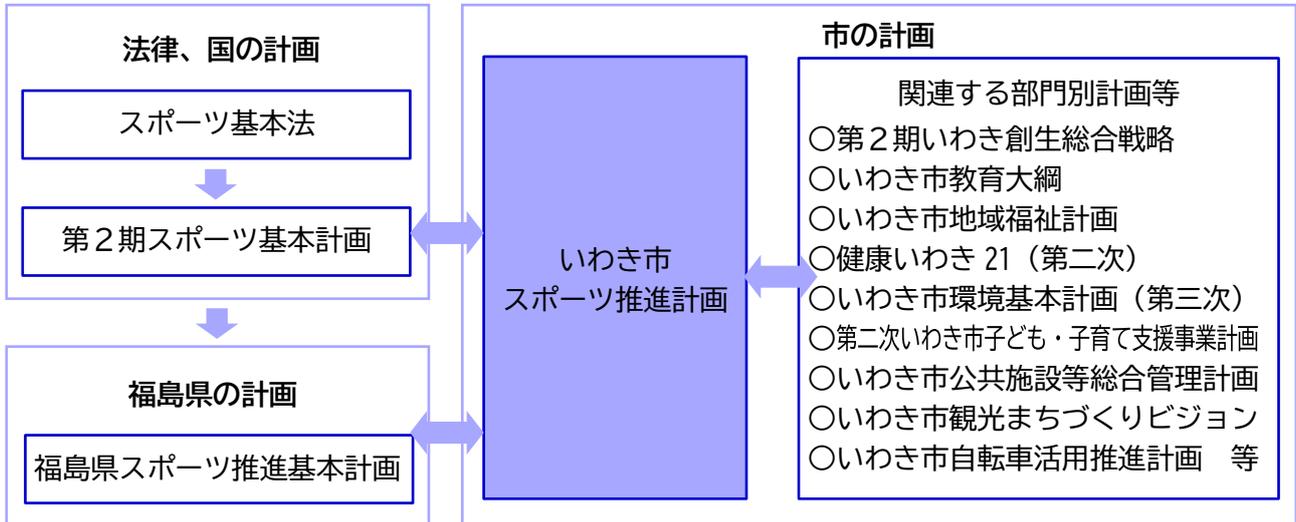
★ 本計画における「スポーツ」の定義

本計画では、「スポーツ」を幅広く捉え、競技種目だけにとどまらず、体力づくりや介護予防等を目的とする体操や軽い運動、ウォーキングやジョギング、レクリエーション、幼児の遊びなど、レベルや内容に関わらず身体を使った運動全てを含んで「スポーツ」という言葉を用います。

2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法に基づき、国・県のスポーツ推進基本計画の趣旨を踏まえながら、本市の特性を活かし、実情に即したスポーツ振興を図るための基本目標及び施策の方向を定めるものです。

計画の位置づけ



※いわき市観光まちづくりビジョンの計画主体は一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー

3 計画の期間

本計画の期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。

なお、本市を取り巻く社会経済情勢の変化や計画の進捗状況等を分析・評価し、必要に応じた見直しを、5年を目途に行うものとします。

本市スポーツ推進計画と関連計画の計画期間

計画	年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12
		2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
いわき市スポーツ推進計画						見直し					
		令和3年度～令和12年度									
いわき創生総合戦略		令和3年度～令和7年度									
国のスポーツ基本計画		第2期スポーツ基本計画（平成29年度～令和3年度） ⇒次期計画未定									
県のスポーツ推進基本計画		福島県スポーツ推進基本計画（平成30年度～令和2年度） ⇒次期計画策定中									

第2章

本市のスポーツを取り巻く現状と課題

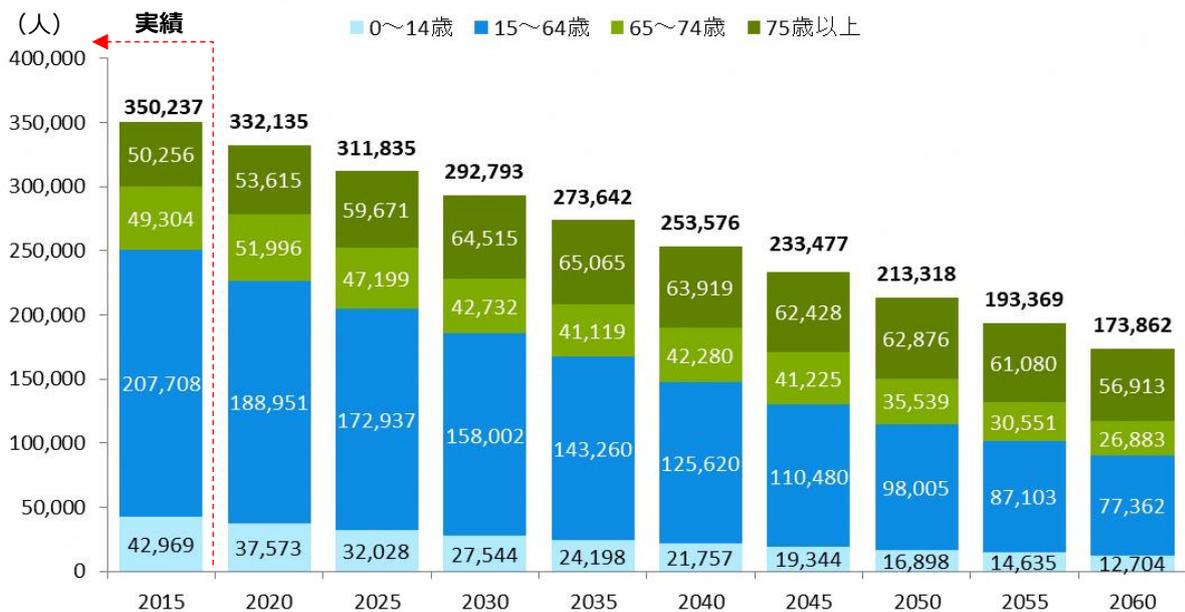
1 社会情勢等の変化

(1) 人口減少、少子・高齢化の進行

人口減少や少子高齢化の急速な進行により、地域活力の低下や財政状況の厳しさが増えています。本市の2015年（平成27年）の人口は350,237人であり、そのうち、年少人口（15歳未満）の構成比は12.3%、生産年齢人口（15～64歳）は59.3%、老年人口（65歳以上）は28.4%となっていますが、今後も人口減少と少子高齢化は進み、本計画の計画期間である2030年（令和12年）に、人口は292,793人まで減少し、年少人口は9.4%に低下し、老年人口は36.6%まで高まることが予測されています。

このような人口動態は、スポーツを「する」「みる」「ささえる」需要の全体量の減少をはじめ、スポーツ団体の加入者の減少、指導者や団体役員などの高齢化や人材不足をもたらしており、一方では、高齢者の健康づくりが重要になるなど、市民のスポーツ活動にも影響を与えています。

本市の人口の推移（基準推計）



資料：実績値 国勢調査
推計値 いわき市人口ビジョン 令和3年3月 いわき市

(2) スポーツによる健康づくり

「スポーツ基本法」の前文に「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠」と規定されているとおり、国民の医療費が増加する中、運動・スポーツに取り組むことによる効果として、健康増進、健康寿命の延伸が注目されるようになってきています。

そのため、スポーツを通じた健康増進を重点的に推進し、運動・スポーツにより健康寿命が平均寿命に限りなく近づくような社会の構築を目指すことが重要となっています。

(3) ライフスタイルの多様化

経済的豊かさを目指す「経済志向」や金銭に換算できない豊かさを求める「生活志向」など市民の働き方や暮らし方のライフスタイルが多様化する一方で、若者の流出や高齢化等により、地域のコミュニティの弱体化が進んでいます。

また、ICTの劇的な進化は、世界中のスポーツ情報や、身近なスポーツ・健康づくりの情報がオンラインでタイムリーに入手できるなど、日常生活においてスポーツへの参加を向上させている一方で、オンラインショッピングやオンラインゲームなどの普及は、外出や体を動かす機会を減らす原因となっています。

(4) 新たなスポーツ種目の増加

スポーツの種目は、19世紀にイギリスで誕生して世界中に伝播したサッカーやテニスなどの競技中心の「近代スポーツ」から、フットサルやソフトテニスなどの人間の多様なニーズに合わせて誰でも身近で手軽に参加できる「ニュースポーツ」へと発展して加わってきました。

その後、ニュースポーツの中でもサイクルスポーツやスケートボード、スポーツクライミングなどの「エクストリームスポーツ」は、音楽やファッションを取り込んで若者を中心とするサブカルチャーを形成しつつ、オリンピックにおける競技化が進んでいます。

また、障がい者スポーツに関連して、障がい者と健常者がともにプレイする「ユニバーサルスポーツ」や多様な身体能力とニーズをもつ参加者全員が能力を出し切る「オルタナティブスポーツ」などの考えも提唱されてきています。

このように、時代とともに、スポーツの種目は、新しい考えや種目が加わってきており、多様な運動能力やニーズに対応するものが増えています。

本市においても、防潮堤を活用したサイクリングルート「いわき七浜海道」とサイクルステーション、21世紀の森公園内にスケートボード広場などのエクストリームスポーツに対応した施設を新たに整備し、多様な種目・ニーズに対応しています。

(5) 施設の老朽化

高度成長期以降に集中的に整備された社会資本は、建設後50年を経過する施設の割合が今後20年間で加速度的に高くなり、老朽化が急速に進むことが見込まれます。

公共スポーツ施設も同様であり、今後、維持管理・更新費用も増加するものと見込まれることから、行政や市民、民間企業等の多様な主体が一丸となって、予防保全の考え方に基づく措置による施設の長寿命化等の戦略的な維持管理・更新のほか、施設の集約・機能複合化を進め、トータルコストの縮減・平準化を図っていくことが重要となっています。

(6) スポーツによる地域活性化

スポーツツーリズムは、自然の多様性や環境を活用しつつ、国内外の観光旅行の需要の喚起と旅行消費の拡大をもたらし、地方公共団体・スポーツ団体・民間企業（観光産業・スポーツ産業）等が一体となり、スポーツツーリズムに取り組むことにより、地域活性化につながります。

また、スポーツは、健康・観光・ファッション・文化芸術のみならず、ICT等との融合による新たな市場の創出、経済価値を生むポテンシャルが高く、政府の成長戦略におけるスポーツの成長産業化の位置付けや、各種大規模国際大会の開催を背景に、スポーツを有望産業と捉え、プロスポ

ーツリーグの活性化やスタジアム・アリーナへの投資、健康・体力づくり志向の産業拡大などに向けた関心が高まっています。

スポーツツーリズムやスポーツ関連産業の振興による効果を、まちづくりやスポーツ環境の充実に還元し、さらにスポーツ人口の拡大へとつなげるスポーツによるまちづくりの好循環を生み出していくことが重要となっています。

(7) いわきFCの誕生、日本パラサイクリング連盟の活動拠点の本市への移転

本市には、Jリーグ百年構想クラブであるプロサッカーチーム「いわきFC」があり、ホームゲームなどでトップアスリートの試合を身近に観戦できます。

いわきFCのU-18・U-15・Girls U-15には、本市の児童生徒たちが在席して活躍しているほか、地元プロチームであるいわきFCは、スポーツの成長産業化や人材育成、スポーツ普及等の社会貢献活動にも取り組んでいます。

また、2019年には、一般社団法人日本パラサイクリング連盟の活動拠点（事務局）が本市へ移転してきました。

一般社団法人日本パラサイクリング連盟は、パラサイクリングの普及・指導・研究、国内・国際大会や合宿の開催といった連盟本来の事業に加えて、本市における障がい者スポーツの普及やスポーツによる市民の健康増進や交流にも取り組んでいます。

これらの団体の存在は、本市におけるスポーツの振興やスポーツによるまちづくりに大きく貢献するものと期待されます。

(8) 東京2020大会とRWC2019の大会レガシー（遺産）の継承

本市では、RWC2019に出場したサモア独立国ラグビー代表チームが事前キャンプを実施し、東京2020大会においても、サモア独立国を相手国としたホストタウンに登録され、本市での事前キャンプの実施が予定されています。

東京2020大会とRWC2019を契機に、スポーツや文化を通じた次世代の人財育成、共生社会の実現、グローバル化の推進、地域ブランディング化を進め、大会のレガシーとして継承していくことが求められます。

(9) 新型コロナウイルス感染症に伴うスポーツ活動の変化

新型コロナウイルス感染症は、東京2020大会をはじめ、さまざまなスポーツの競技大会やイベントの延期や中止、規模の縮小や観客の制限などの影響を与え、日常の運動・スポーツ活動においても制限や自粛、学校や施設の休業、実施方法の変化などの影響があります。

「新型コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響に関する全国調査（2020年6月調査）」（笹川スポーツ財団）によると、運動・スポーツ活動においては、特に、「水泳」・「ゴルフ（コース）」・「ボウリング」・「海水浴」・「野球」・「テニス（硬式テニス）」・「エアロビックダンス」などの実施が減少しています。

一方、感染症対策を施した運動・スポーツ活動として、オンラインによるスポーツの競技大会やイベントの配信、体を使う遊びや、ダンス・トレーニングなどの動画配信などの取組みも行われています。

2 市民スポーツ活動の現状

2-1 成人の運動・スポーツ実施状況

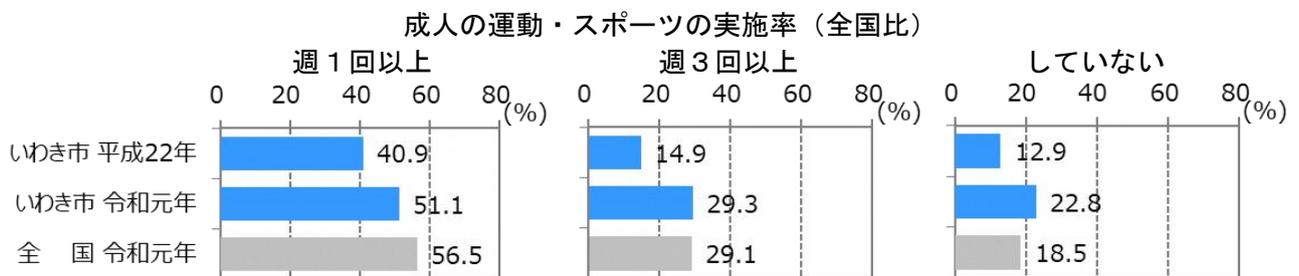
(1) 運動・スポーツ実施率

令和元年度に実施したアンケートにおけるこの1年間において週1回以上運動・スポーツを実施している本市の成人の割合は51.1%であり、9年前の平成22年度時点の40.9%から10.2ポイント上昇していますが、全国値の56.5%を下回っています。

週3回以上運動・スポーツを実施している成人の割合は令和元年度時点で29.3%であり、平成22年度時点の14.9%から14.4ポイント上昇し、全国値の29.1%を上回っています。

一方、運動・スポーツをしていない成人の割合は、令和元年度時点で22.8%であり、平成22年度時点の12.9%から9.9ポイント増加し、令和元年度の全国値の18.5%を上回っています。

このように、成人のスポーツ実施率は、この10年間で、頻度高く実施している人と全く実施しない人の二極化が進んでいます。



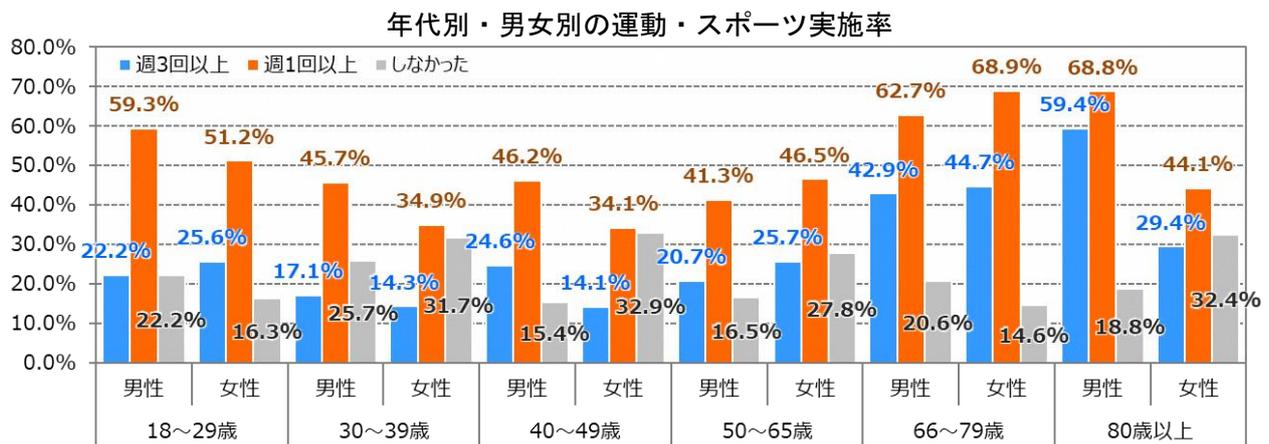
※調査対象者は全調査とも18歳以上。全国値は、東京都区部と政令指定都市を除く人口10万人以上の市の値。
 資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市
 運動・スポーツに関する実態調査 平成22年度 いわき市
 令和元年度スポーツの実施状況等に関する世論調査 スポーツ庁

(2) 年代別・男女別の運動・スポーツ実施率

年代別・男女別にみると、30歳から49歳までの女性の実施率が低いことが目立ちます。

18歳から29歳では一定の実施率が見られますが、65歳までの実施率が全体的に低く、その中でも、働き盛りであったり、子育て期間であったり、さらに仕事と子育てを両立していると考えられる30歳から49歳の実施率が特に低い状況です。

一方、66歳以上の実施率は高く、特に、週3回以上の運動・スポーツの実施率は高く、他の世代の2倍ほどとなっています。



資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市

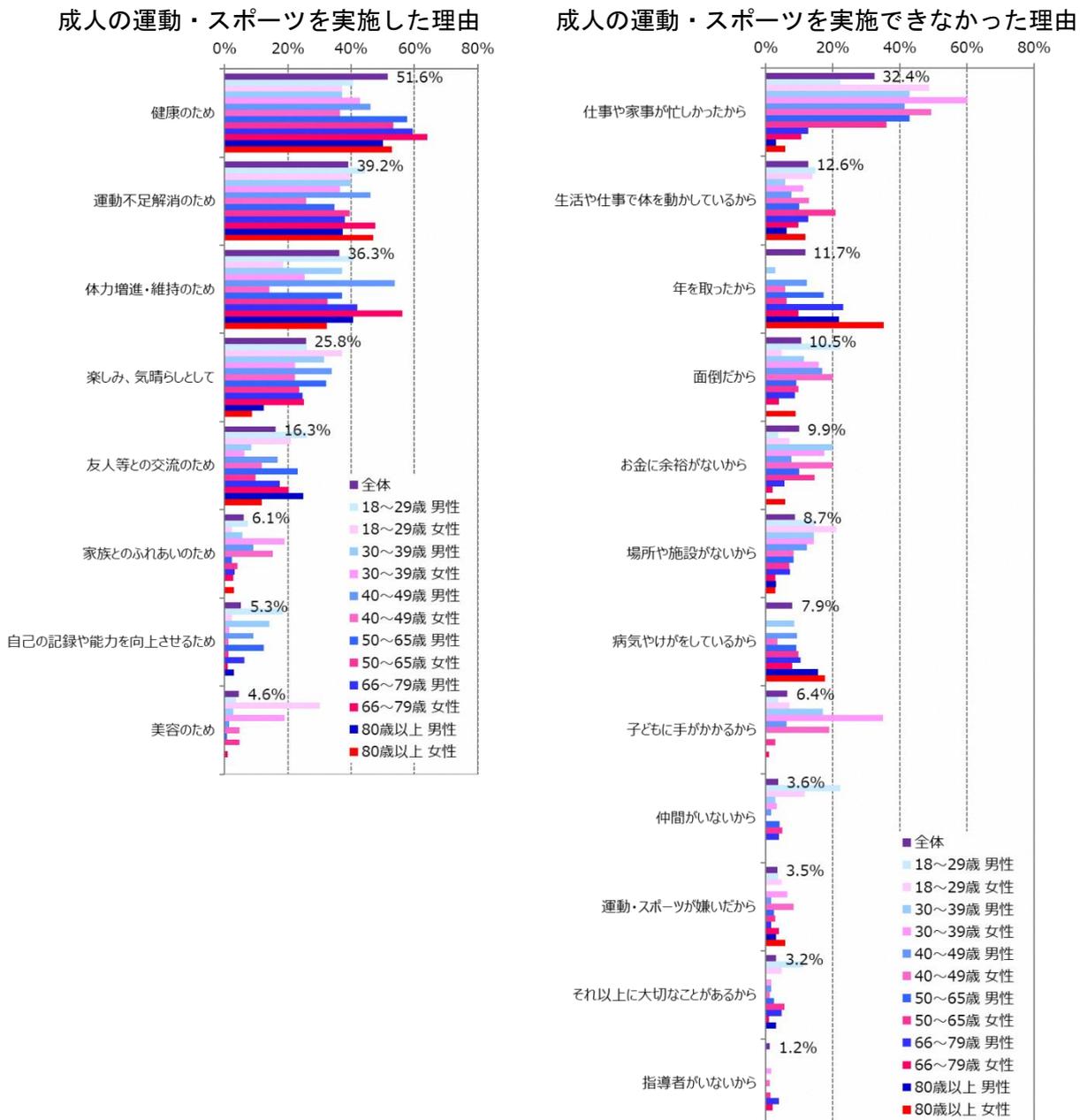
(3) 運動・スポーツを実施した理由・しなかった理由

スポーツを実施した理由については、「健康のため」・「運動不足解消のため」・「体力増進・維持のため」といった健康や体力のためという回答が上位を占めます。

年代別・男女別に見ると、「健康のため」など健康や体力のためという回答は中高年世代での回答が多く、「楽しみ、気晴らしとして」は若い世代で多く、若い世代の女性では「美容のため」という回答も多く見受けられます。

週に1日以上スポーツを実施できなかった理由は、「仕事や家事が忙しかったから」の32.4%が群を抜いて高い状況です。

年代別・男女別に見ると、「仕事や家事が忙しかったから」という回答のうち就業世代(65歳まで)での回答が多く、比較的、子育て世代の女性では「子どもに手がかかるから」という回答が多く、若い世代では「場所や施設がないから」や「仲間がいないから」という回答が多い状況が見受けられます。



(4) 実施した運動・スポーツの種類・種目

1年間に行った運動・スポーツの種類・種目は多い順（複数回答）に、「ウォーキング」46.2%、「ゴルフ」12.3%、「体操」12.1%、「マラソン・ランニング」10.7%、「ジム」9.4%となっています。

全国の状況と比較すると、本市では、「野球・ソフトボール」・「バドミントン」・「バレーボール」・「ビーチバレーボール」・「ダンス」の実施率が高く、「ウォーキング」・「マラソン・ランニング」・「ジム」・「水泳」・「自転車・サイクリング」など、健康づくりを目的にすることや、個人で実施することが多いと考えられる種類・種目の実施率に低い傾向が見受けられます。

特に、全国値との差が大きな種類・種目として、本市の「ウォーキング」と「自転車・サイクリング」の実施率は低い状況ですが、全国値が近年急増していることが影響していると考えられます。（平成28年度の全国値：ウォーキング41.5%、自転車・サイクリング8.9%）

成人が実施した運動・スポーツの種類・種目（複数回答）

本市上位種類・種目			全国値
1	ウォーキング	46.2%	64.8%
2	ゴルフ	12.3%	16.2%
3	体操	12.1%	15.0%
4	マラソン・ランニング	10.7%	14.1%
5	ジム	9.4%	14.7%
6	ヨガ	7.4%	7.8%
7	野球・ソフトボール	6.3%	4.4%
8	バドミントン	5.3%	3.2%
9	バレーボール・ビーチバレーボール	5.0%	2.2%
10	ダンス	4.2%	2.5%
11	登山、ハイキング	4.0%	4.7%
12	サッカー・フットサル	3.6%	4.7%
13	水泳	3.3%	6.1%
14	自転車・サイクリング	2.7%	14.3%
15	卓球	2.3%	3.7%

※全国値は、東京都区部、政令指定都市を除く人口10万人以上の市の値。

※黄色枠は、全国値に比べて本市での実施率が高い種類・種目

※調査対象者は、両調査とも18歳以上

資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市

令和元年度スポーツの実施状況等に関する世論調査 スポーツ庁

2-2 子どもの体力とスポーツ実施状況

(1) 体力と体格

わが国の小・中学生の体力は、近年緩やかに向上していますが、水準が高かった昭和 60 年頃と比較し、依然として低い水準に止まっています。

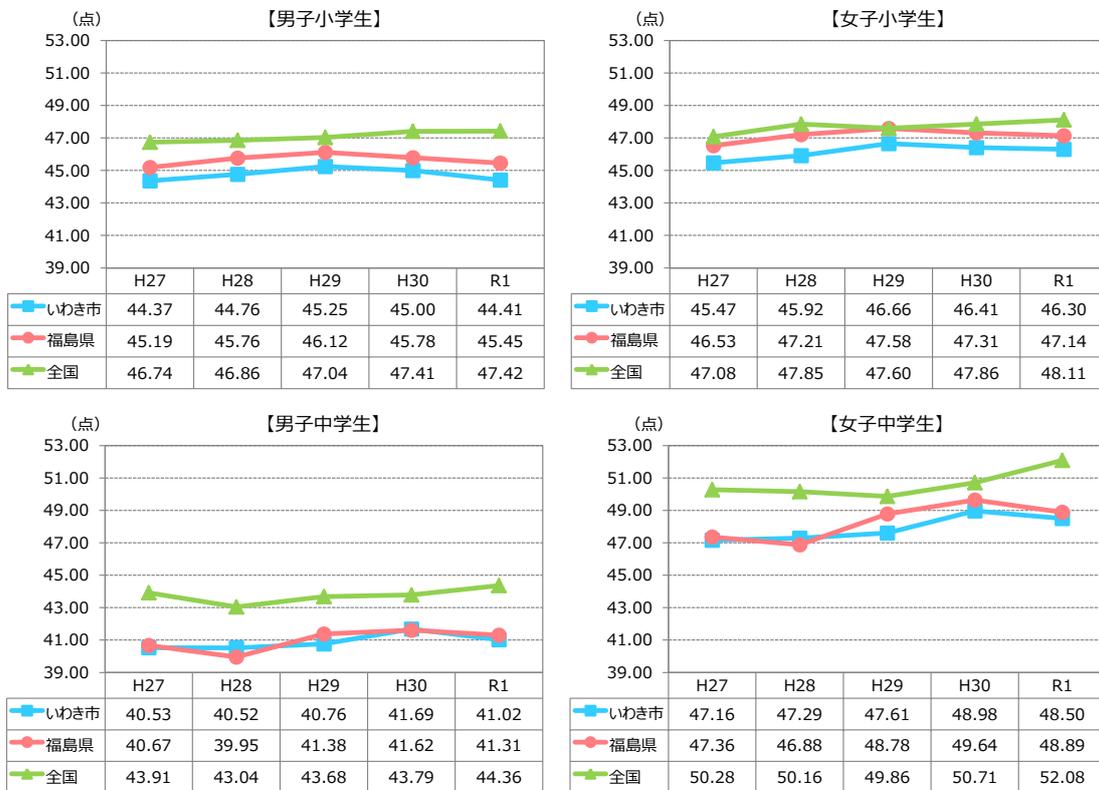
「新体力テスト」の結果によると、本市の小・中学生の体力は、男女とも、その全国平均値を下回っています。

小学生では福島県平均値も下回っており、中学生では全国平均値との差が大きくなっています。

本市の小・中学生の肥満者割合は、男女とも全ての学年で全国値を上回っており、ほぼ全ての学年で福島県の肥満者割合も上回っています。

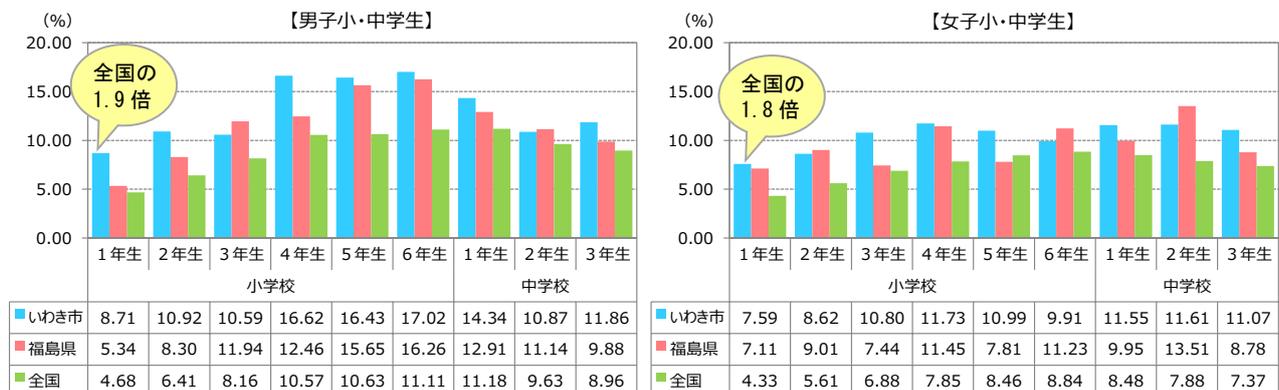
全国値に比べて小学 1 年生で男子は 1.9 倍、女子は 1.8 倍となっており、幼少期からの運動の実施状況や食生活などが影響しているものと考えられます。

男女別学年別小・中学生の「新体力テスト」の総合得点平均値の推移



資料：各年度学校保健統計調査体力・運動能力調査 いわき市

男女別学年別小・中学生の肥満者割合（令和元年度）



資料：令和元年度学校保健統計調査体力・運動能力調査 いわき市

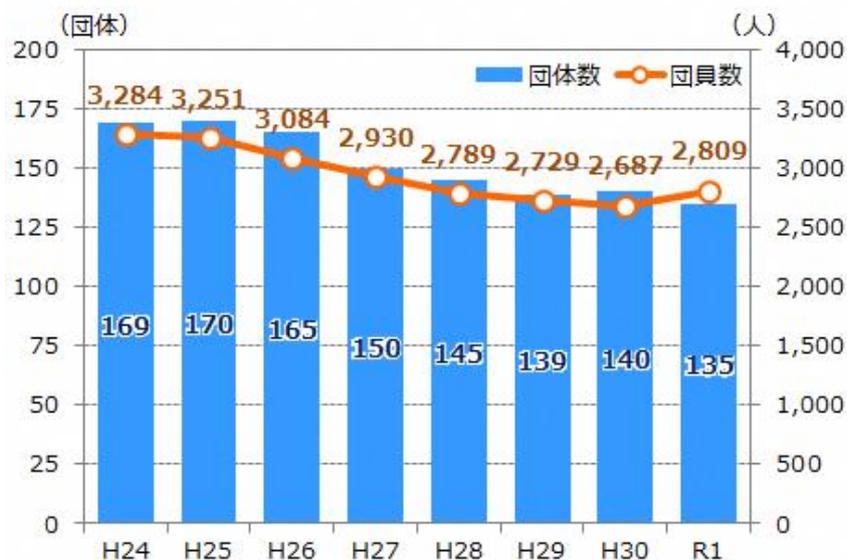
(2) スポーツ実施状況

スポーツ少年団の団体数は、平成 24 年度の 172 団体から令和元年度には 135 団体と 7 年間で 21.5%減少し、団員数も 7 年間で 3,284 人から 2,809 人と 14.5%減少しています。

中学校の運動部の部員数は、平成 27 年度の 7,642 人から令和元年度には 6,634 人に 4 年間で 13.2%減少しています。

中学校の運動部の入部率（部員数/生徒数）は、平成 27 年度の 77.7%から平成 29 年度に 80.4%に上昇しましたが、令和元年度は 74.2%に低下しています。

スポーツ少年団の団体数と団員数の推移



資料：いわき市

中学校の運動部活動部員数と入部率



資料：いわき市

2-3 高齢者のスポーツ実施状況

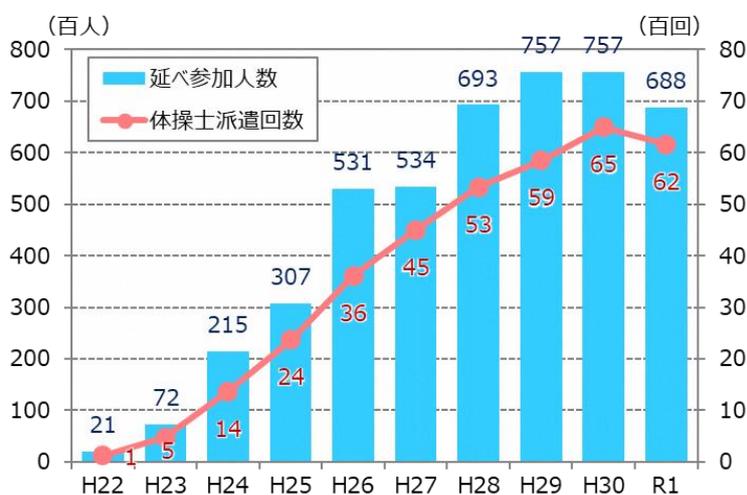
「2-1 成人の運動・スポーツ実施状況」で示していますが、66歳以上の運動・スポーツ実施率はそれ以外の成人と比べて高く、特に、週3回以上の運動・スポーツの実施率は高く、他の世代の2倍ほどとなっています。

本市では、身近な地域で気軽に介護予防活動に参加できる地域づくりを目的に「いわき市シルバーリハビリ体操」を実施しています。

シルバーリハビリ体操は、市民ボランティアである体操指導士（養成講座の受講が必要）の指導により、平成21年度から住民参加型介護予防事業として実施しています。

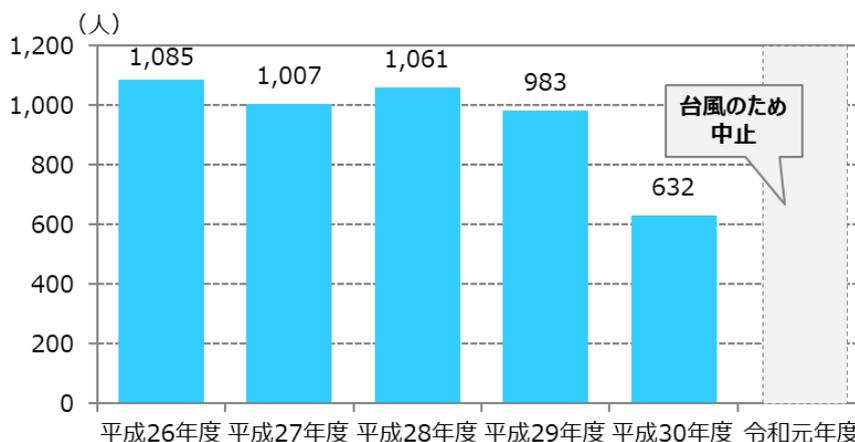
また、高齢者がスポーツを通じて健康増進を図るとともに、相互の親睦交流を深めるため、いわき市老人クラブ連合会が実施している「シルバーピアード」への補助なども行っています。

シルバーリハビリ体操への参加人数の推移



資料：いわき市

シルバーピアードの参加人数の推移



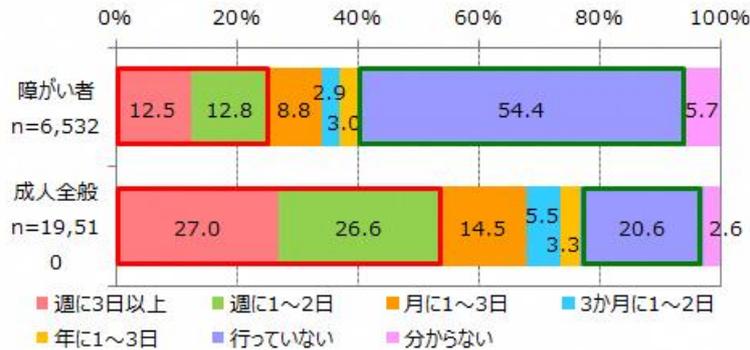
資料：いわき市

2-4 障がい者の運動・スポーツ実施状況

令和元年度の全国の障がい者(成人)の週1回以上のスポーツ実施率は25.3%にとどまっており、一般成人に比べて低く、スポーツを行っていない人は54.4%で半数を超えています。

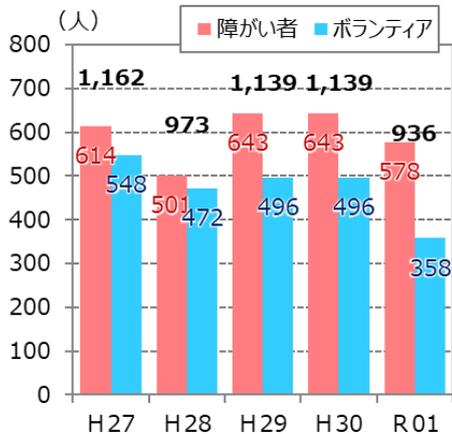
本市においては、障がい者の余暇活動の充実や健康増進及びスポーツを通じてのネットワークづくりを目的とした「サンアビススポーツ塾」や、各種レクリエーションを通して障がい者とボランティアの交流による相互理解を深め、障がい者の余暇活動の充実を図ることを目的とした「わいわい塾」、障がいの有無に関わらず様々なパラリンピック競技及び障がい者スポーツ(パラスポーツ)種目を体験する「パラスポーツ体験教室」などを実施しています。

障がい者のスポーツ実施率(全国)



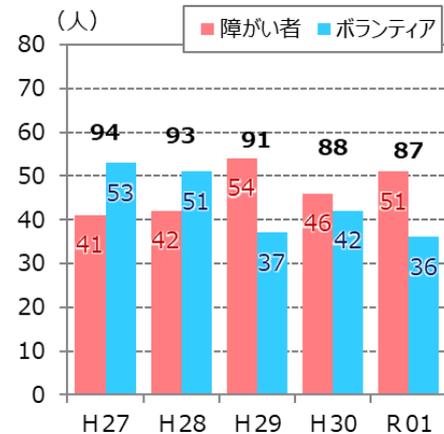
資料：令和元年度スポーツの実施状況等に関する世論調査 スポーツ庁

サンアビススポーツ塾の参加者の推移



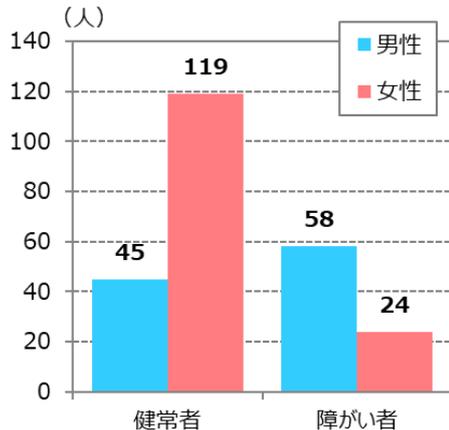
資料：いわき市

わいわい塾の参加者の推移



資料：いわき市

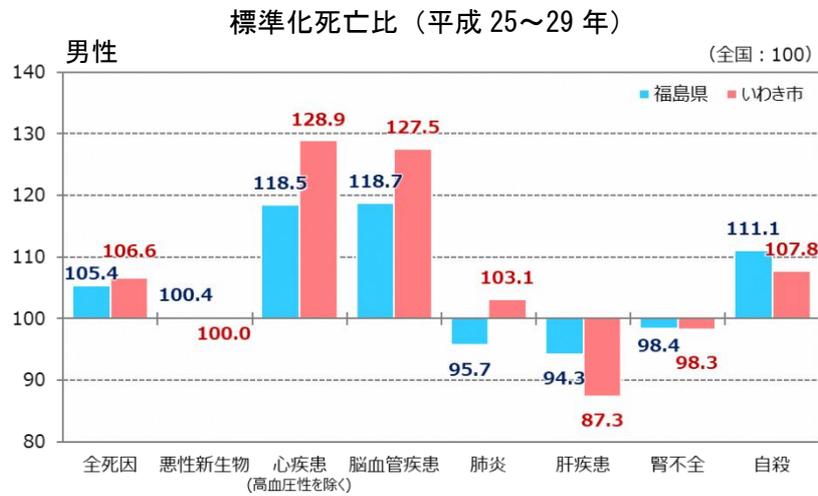
パラスポーツ体験教室の参加者数(令和元年度)



資料：いわき市

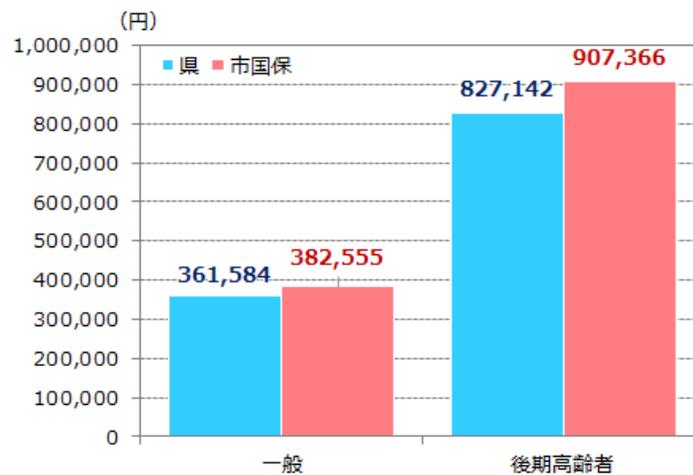
2-5 市民の健康状態

本市は、心疾患や脳血管疾患などの生活習慣病で死亡する市民の割合が全国平均より高い状況です。また、国民健康保険 1 人あたりの医療費は、県平均を上回っています。



資料：平成 25～29 年人口動態保健所・市町村別統計（人口動態統計特殊報告）

市国民健康保険 1 人あたり医療費（平成 30 年度）



資料：平成 30 年度国民健康保険事業状況（福島県）、令和元年度後期高齢者医療概況
福島県後期高齢者医療広域連合

2-6 スポーツ観戦の状況

スポーツを1年で1回でも直接観戦した人の割合は、本市は35.9%であり、全国の29.7%を上回っています。

テレビやインターネットを含めた場合の割合は、本市は93.6%であり、全国の78.5%を上回っています。

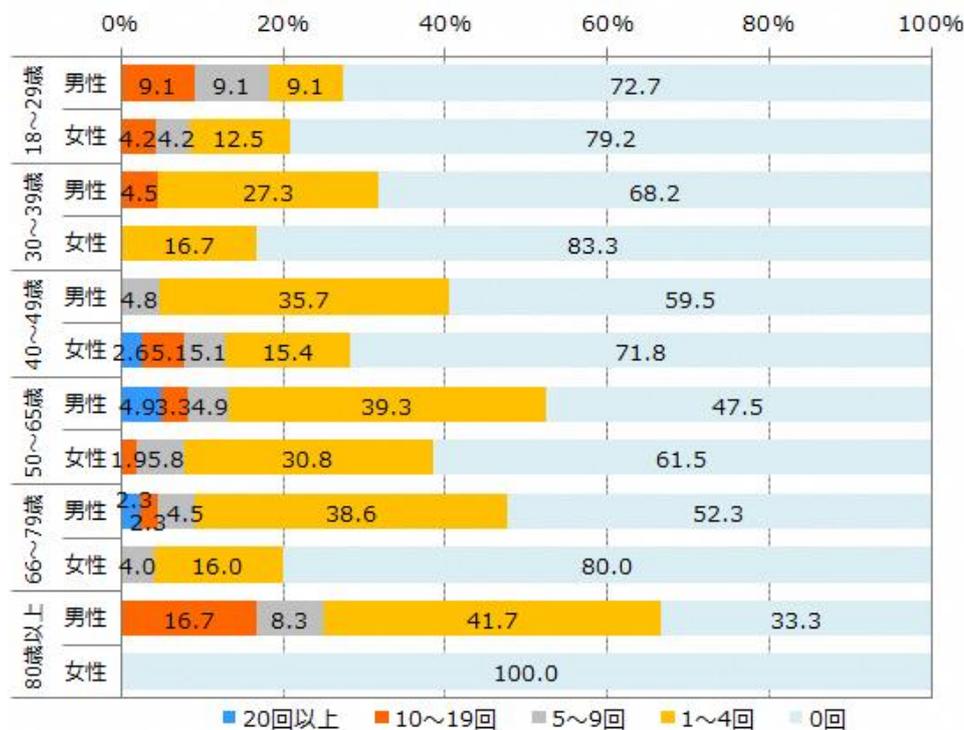
このように、本市の市民は比較的「みる」スポーツへの関心は高いと考えられます。

世代別男女別に直接観戦した人の割合をみると、女性に比べて男性の割合が高く、男性の中でも高齢になるほど観戦した回数の多い人の割合が高くなっています。



※全国は東京都区部と政令指定都市を除く人口10万人以上の市の値。
資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市
令和元年度スポーツの実施状況等に関する世論調査 スポーツ庁

世代別男女別スポーツ観戦回数 (直接)



資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市

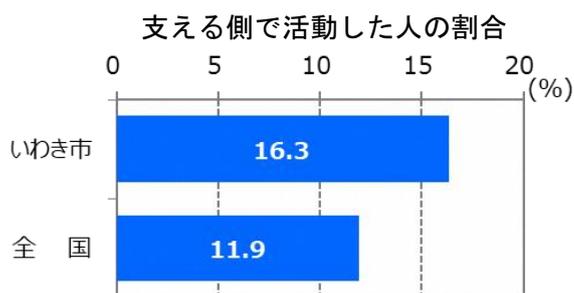
2-7 スポーツを支える活動の状況

令和元年度に実施したアンケートでは、過去に、スポーツボランティアや指導者などで、スポーツを支える活動をしたことがある市民の割合は16.3%となっています。

なお、全国における1年間にスポーツを支える活動をした人の割合は11.9%です。

世代別には、若い世代でスポーツボランティアとして活動した人の割合において低い傾向が見受けられます。

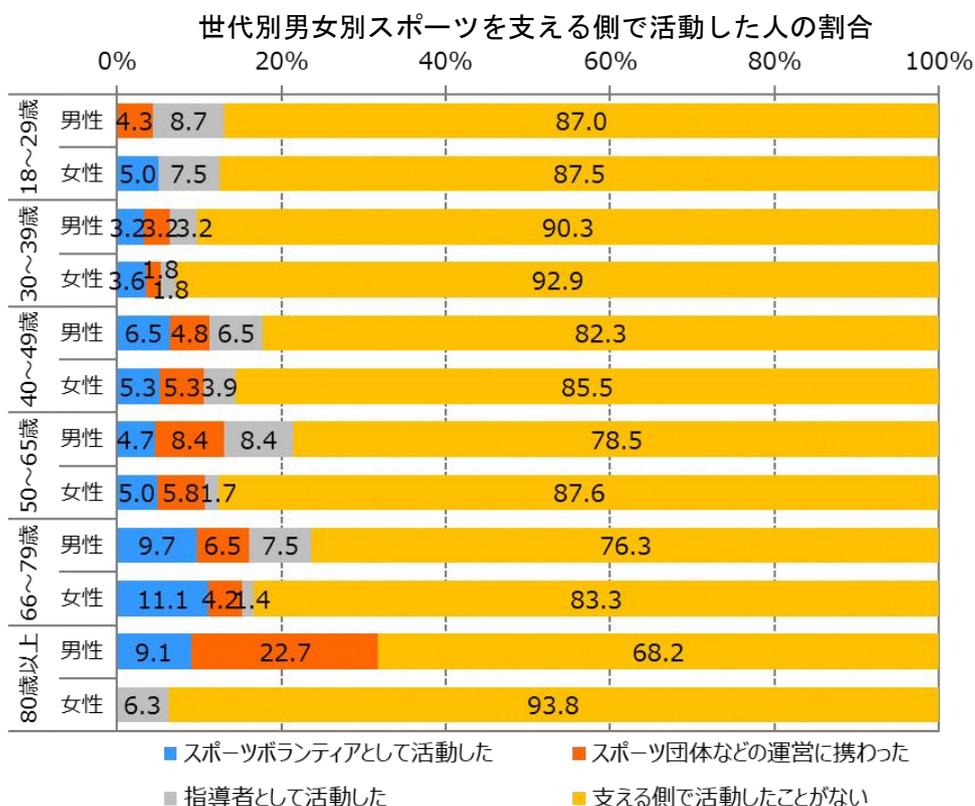
男女別には、スポーツを支える側での活動のうち、スポーツボランティアとしての活動した人の割合は女性がやや高く、スポーツ団体などの運営に携わった人や指導者としての活動した人の割合は男性がやや高い傾向が見受けられます。



※本市は過去の経験、全国はこの1年間の経験

※全国は東京都区部と政令指定都市を除く人口10万人以上の市の値。

資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市
令和元年度スポーツの実施状況等に関する世論調査 スポーツ庁



資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市

3 スポーツ関係団体・事業者の現状

3-1 スポーツ関係団体の概要

本市のスポーツ団体には、いわき市体育協会（各地区体育協会・各競技種目団体などで組織）・いわき市スポーツ推進委員会・いわき市スポーツ少年団本部・いわき地区高等学校体育連盟・いわき市中学校体育連盟・5つの総合型地域スポーツクラブなどがあり、福島県の関係団体とも連携して、本市のスポーツの普及、振興及び競技力の向上並びに市民の体力及び健康の増進を図るため、競技スポーツから生涯スポーツにわたり、スポーツ大会やスポーツ教室等の開催やスポーツの指導・助言など、地域に密着した活動を行っています。

多くの団体では、人口減少や高齢化の中、指導者の総数や専門的な知識を持った指導者が不足しており、団体役員や指導者の高齢化も進んでいます。

また、上記のほかには本市特有のスポーツ関係団体・事業者としては、令和元年度に本市に事務局を移転してきた日本パラサイクリング連盟、スポーツや健康の学術研究機関である「東日本国際大学」と「医療創生大学」、本市唯一のプロスポーツチームである「いわきFC」があり、各団体等と連携したスポーツ振興やまちづくりに取り組んでいます。

一般社団法人日本パラサイクリング連盟（JPCF） 概要

法人名	一般社団法人日本パラサイクリング連盟(JPCF)
設立	2012年4月5日(日本障害者自転車協会より移行)
事務局所在地	いわき市常磐上湯長谷町釜ノ前1-1 いわきFCパーク（2019年5月伊豆の国市から移転）
事業	<ul style="list-style-type: none"> ○パラサイクリングの普及、指導、研究 ○パラリンピックをはじめとする国際大会への代表選手を選考、派遣 ○パラサイクリングの国内、国際大会、合宿の開催 ○パラサイクリングの競技力の向上
いわき市関連の主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○いわき市及び株式会社いわきスポーツクラブと「スポーツを通じた共生のまちづくりに関する連携協定」を締結 ○障がい者スポーツの普及を通じた共生社会の促進 ○スポーツを通じた市民等の健康増進 ○スポーツ交流の推進 ○IWAKI DREAM CHALLENGE 参加 ○ツール・ド・いわき 参加

出典：JPCFホームページ、平成31年度事業報告書

いわき市の大学のスポーツ関連学部・学科

東日本国際大学	健康福祉学部スポーツ健康コース 健康とスポーツに関する高度な知識を幅広く学ぶ。スポーツを通して基礎的なコミュニケーションスキルや自己規律を身につける科目のほか、人間洞察力・対人援助スキルを高めることにつながる科目で構成。
医療創生大学	健康医療科学部作業療法学科・理学療法学科

資料：各大学HP

3-2 いわきFCの概況

本市には、Jリーグ百年構想クラブであるプロサッカーチーム「いわきFC」（令和2年度末時点はJFL所属）があり、市民が身近にプロスポーツを観戦でき、U-18・U-15・Girls U-15には本市の児童・生徒たちが在席して活躍しています。

「いわきFC」を運営する「株式会社いわきスポーツクラブ」は、「スポーツを通じて社会を豊かにする」という理念のもと、競技としてのスポーツに留まらずスポーツの成長産業化や人財育成などに積極的に取り組んでおり、高校生以上を対象としたトレーニング教室や小学生以下の子どもを対象としたスポーツ教室の実施など、複数の年齢層へのスポーツ普及等の社会貢献活動に取り組んでいます。

2017年には、本市やいわき商工会議所など70団体とともに、「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」を設立し、「東北一の都市いわき」の実現を目指して、市民の健康増進やスポーツ人財育成、観光振興、いわきFC選手と地域との交流、ホームチームの機運醸成に取り組んでいます。

株式会社いわきスポーツクラブ 概要

社名	株式会社いわきスポーツクラブ
本社所在地	いわき市常磐上湯長谷町釜ノ前 1-1
設立	2015年12月11日(福島県社会人リーグ3部「いわきFC」の運営を引き継ぐ)
沿革	2016年 福島県社会人1部リーグ昇格 2017年 東北社会人サッカー2部南リーグ昇格、いわきFCパークオープン 2018年 東北社会人サッカー1部リーグ昇格、いわきFCクラブハウスオープン 2019年 日本フットボールリーグ(JFL)昇格、いわきFCクリニック・ステーション オープン
事業内容	・サッカークラブ運営事業(いわきFC) ・スポーツ教室運営事業 ・スポーツ施設運営事業 ・スポーツに関するライセンスグッズ、コンテンツ販売事業
いわきFC 在籍者数 (R2.11)	トップチーム 25名 U-18 40名 U-15 48名 Girls U-15 21名
提携等	2017年 「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」設立 2019年 いわき市、日本パラサイクリング連盟と「スポーツを通じた共生のまちづくりに関する連携協定」締結 いわきサッカー協会と「サッカーを通じた人材育成に関する連携協定」締結

資料：いわきFCホームページ

いわきFCの地域と連携した取組み

取組み		概要
稼げるまちづくり	オンリーワンのスポーツ×メディカルツーリズムモデルの構築	「いわきFCパーク」の機能強化を図り、域内外から大会・合宿需要を取り込むスポーツとメディカルが一体となったオンリーワンのモデルケースを構築。 ・合宿チーム向けアスリートステーションの整備 ・スポーツクリニックの整備 ・スポーツコミッション機能の強化
人材育成・ヘルスケア	スポーツによるヘルスケアモデルの構築	成人病予備軍の市民を対象に、正しい運動・正しい食事・正しい睡眠による健康プログラムを実施。
	スポーツを通じた人財育成	いわきスポーツアスレチックアカデミー、地域の次世代を担う子ども達の人財育成を、いわきスポーツクラブが無償で実施。
地域ブランディング	ホームチームの機運醸成	JFL昇格を祝し、いわき駅・湯本駅に看板を設置。
	いわきFCと連携したシティセールスの推進	フラシティいわきホームタウンデーとして、来場者特典やフラシティいわきグッズの抽選会、ハーフタイムでフラを披露。
スマートライフ	スポーツによるスマートライフ推進	新型コロナウイルス感染症の拡大による市民の外出自粛等の影響を踏まえ、スポーツとIoTを活用した、オンラインによる新たな健康増進プログラムを構築する。

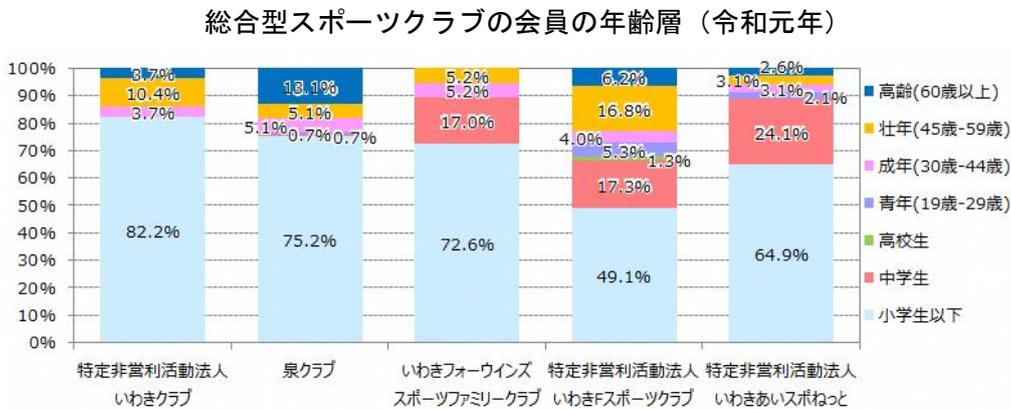
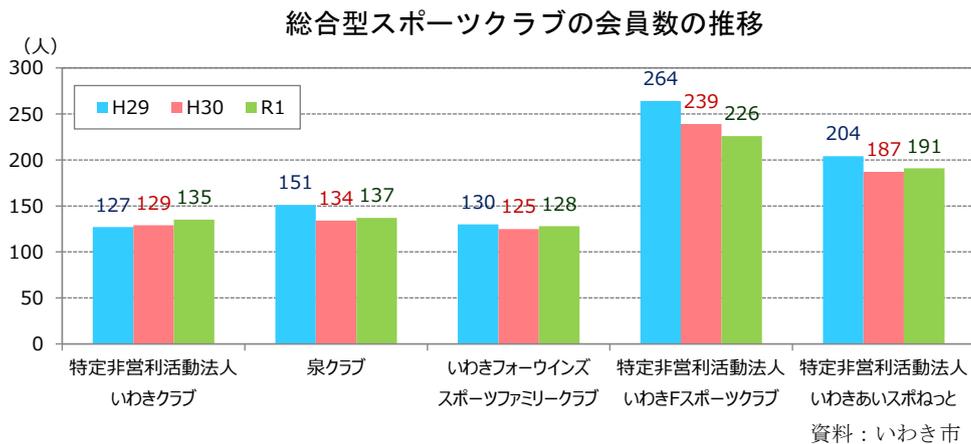
資料：いわき市

3-3 総合型地域スポーツクラブの現状

本市では、生涯スポーツの振興を図るうえで重要な役割を果たす総合型地域スポーツクラブが、平成14年度以降、6団体設立され、NPO法人化により運営体制を強化し活動している団体もあります。（平成30年度1団体解散）

会員数の推移は団体によって異なりますが、5団体の総会員数は、平成29年度は876人でしたが令和元年度は817人に減少しています。

総合型地域スポーツクラブは、多様目・多世代・多志向のスポーツを地域住民の自主的・主体的な運営で行うことを基本とする団体となっていて、本市の各クラブの世代別会員数をみると小学生以下の会員がほとんどを占める団体が多い状況となっています。



4 スポーツ施設の現状・利用実態

4-1 スポーツ施設の整備状況

本市の主要なスポーツ施設は 58 施設あり、広い市域に点在しています。

各地区に一定の整備水準のスポーツ施設が立地していますが、規模の大きいスポーツ施設は、平地区などの市街地に集中しています。

このため、施設利用の利便性が低い地区が存在するとともに、マイカー移動に依存しているため駐車スペースが不足している施設がみられます。

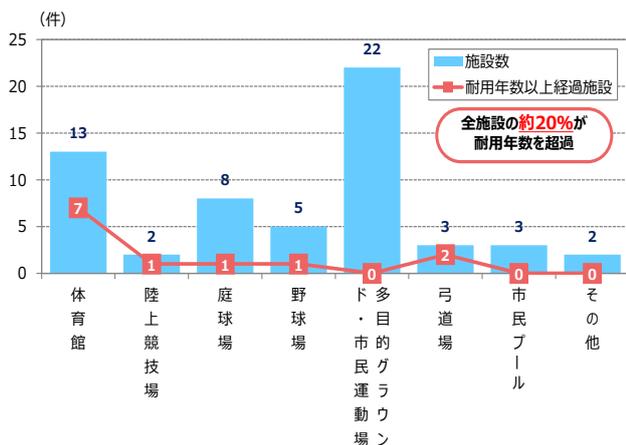
スポーツの実施状況等に関するアンケートによると、市民がスポーツの普及・振興において市に望むものとしては、利便性や安全性の確保、空調設備や音響設備なども含めて、「施設・設備の充実」が 36.4%で最も多い状況です。

耐震化など既存施設の改修に取り組んでいますが、多くのスポーツ施設は建設後 30 年以上経過し、約 20%が耐用年数を超過している状況にあり、維持管理・更新費用も増加しています。

また、施設のバリアフリー化を進めており、スロープがある施設が 45.0%、多目的トイレがある施設が 51.7%、障がい者用駐車場がある施設が 56.7%となっていますが、全く整備されていない施設は約 3割残っています。

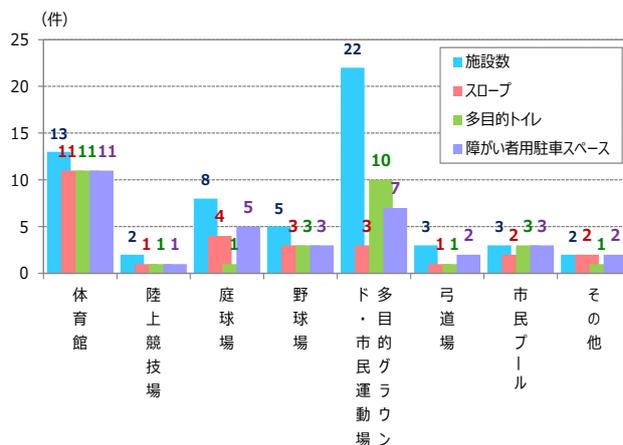
平成 28 年度には、宿泊施設「新舞子ハイツ」に多目的運動場を併設して「いわき新舞子ヴィレッジ」を、平成 29 年度には、災害時の救援物資の集積・分配機能を担う拠点施設であり、平常時には人工芝張りの屋内運動場として利用できる「いわきグリーンベース」を、令和 2 年度には、防潮堤や既存の国・県道や市道などを活用したサイクリングルート「いわき七浜海道」とサイクルステーション（市内 6 箇所）、21 世紀の森公園内に福島県内では最大級のスケートボード広場を整備するなど、新たなスポーツ施設の整備や災害時の拠点施設としての設備の充実にも取り組んでいます。

スポーツ施設の耐用年数超過施設数



資料：いわき市

スポーツ施設のバリアフリー化の状況



資料：いわき市

4-2 スポーツ施設の利用実態

市内の主要なスポーツ施設の利用件数と利用者数は、東日本大震災の影響で平成 23 年に激減しましたが、開催される大会によって毎年変動があり単純に比較はできないものの、東日本大震災前の平成 22 年度と比べて、全体の利用件数は 11.4%増加し、利用人数は 14.9%減少しています。

施設区分別には、庭球場と多目的グラウンド・市民プール・その他の施設は、利用件数と利用人数とも増加しています。

体育館と野球場は、利用件数は増加していますが利用人数は減少しています。

陸上競技場と市民運動場、弓道場は、利用件数と利用人数とも減少しています。

特に、利用件数では陸上競技場が平成 22 年度に比べて 51.3%、利用人数では弓道場が 75.7%であり、大きく減少しています。

スポーツ施設の施設区分別の利用件数・利用人数の推移

施設区分	集計区分	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	増加率 (R1/H22)
体育館	団体利用件数	14,847	7,684	13,294	15,127	14,411	16,659	16,732	16,648	14,415	14,907	100.4%
	団体・個人利用人数	494,920	215,450	392,099	428,989	431,341	488,327	431,975	433,537	349,543	329,618	66.6%
陸上競技場	団体利用件数	351	191	338	368	463	173	229	242	214	180	51.3%
	団体・個人利用人数	78,153	43,295	78,348	80,924	111,637	62,662	90,751	82,612	85,698	72,345	92.6%
庭球場	団体利用件数	4,355	2,484	4,154	5,312	5,406	9,311	9,407	9,595	9,334	9,577	219.9%
	団体・個人利用人数	115,062	62,898	107,647	114,087	115,981	129,160	129,260	117,841	116,542	116,308	101.1%
野球場	団体利用件数	798	622	842	1,001	1,198	1,323	1,171	1,285	1,357	1,350	169.2%
	団体・個人利用人数	73,245	53,730	87,374	110,721	105,584	88,044	75,485	81,033	79,126	56,975	77.8%
多目的グラウンド・ 市民運動場	団体利用件数	6,487	2,946	4,050	4,572	4,872	4,848	6,436	7,084	7,276	6,864	105.8%
	団体・個人利用人数	364,637	121,768	205,713	234,622	229,776	228,064	313,872	353,235	351,189	303,327	83.2%
弓道場	団体利用件数	68	36	126	82	86	86	84	96	87	57	83.8%
	団体・個人利用人数	26,043	16,045	31,819	26,902	25,962	24,012	26,118	26,193	27,183	19,705	75.7%
市民プール	団体利用件数	269,762	288,731	327,631	333,495	339,099	333,267	310,019	330,017	332,620	297,543	110.3%
	団体・個人利用人数	407,747	289,289	348,182	361,304	371,363	454,269	439,790	455,852	470,554	425,856	104.4%
その他	団体利用件数	396	606	539	441	523	353	408	476	557	558	140.9%
	団体・個人利用人数	1,874	2,536	3,162	3,438	3,912	5,095	5,013	4,902	5,022	4,615	246.3%
合計	団体利用件数	297,064	303,300	350,974	360,398	366,058	366,020	344,486	365,443	365,860	331,036	111.4%
	団体・個人利用人数	1,561,681	805,011	1,254,344	1,360,987	1,395,556	1,479,633	1,512,264	1,555,205	1,484,857	1,328,749	85.1%

資料：いわき市

5 スポーツ大会・イベントの現状

本市では、市民参加型から全国・世界規模まで、年間を通して様々なスポーツ大会・イベントが開催されています。

近年は、参加者の評価が年々高まり東北を代表する市民マラソンに成長した「いわきサンシャインマラソン」をはじめ、いわきFCのホームゲーム、プロ野球やラグビートップリーグの試合など全国規模やプロスポーツの大会・イベントが開催されています。

また、平成28年度には「WBSC U-15 ベースボールワールドカップ in いわき」が開催され、令和元年度には、東京2020大会ホストタウンであるサモア独立国のラグビーナショナルチーム（愛称：マヌ・サモア）がRWC2019日本大会に出場する際の事前キャンプを本市で実施するなど、世界規模の大会・イベントも開催されています。

なお、本市には、交流人口の拡大、風評の払拭及び地域経済の活性化を図るとともに、市外からのスポーツ大会や合宿の誘致にあたり、主催者の各種手続きや調整等の負担を軽減し、円滑に実施するための支援等を総合的に行うことを目的とした「いわき市スポーツコミッション」事業により、日本代表クラスやパラスポーツ、高校及び大学など様々な世代で、各競技の合宿などを誘致し、地域に効果をもたらしております。

本市には、現在、宿泊施設（ホテル・旅館営業）が174施設あり、そのうち収容人数が100人を超える宿泊施設が40施設と、大会・イベントや合宿の宿泊が受け入れられる施設が充実しております。



画像掲載

6 現状から見た課題

(1) 生涯にわたってスポーツに取り組むために

生涯にわたってスポーツに取り組むために、世代ごとの課題を把握し、必要な取り組みについて整理します。

課題① 子どもの健康な体づくり

幼児期から少年期にかけてスポーツの楽しさに触れ、スポーツに慣れ親しむことは、生涯にわたるスポーツ活動の習慣づけをすることにつながり、仲間づくりや体力の向上、心身の健全な発達など多くの効果が期待できます。

本市の子どもは全国と比べて、体力は低い水準であり、肥満者割合は高い状況にあります。

学校における体育の授業や部活動などの体育的活動の充実を図るとともに、家庭や地域と連携・協力し、スポーツ少年団活動や野外活動事業など、運動・スポーツを楽しむ機会を創出することにより、子どものスポーツ活動を支えていくことが必要です。

課題② ビジネスパーソンへのスポーツ機会の充実

成人の運動・スポーツの実施率は、全国に比べて低く、働き盛りであったり、子育て期間であったり、さらに仕事と子育てを両立していると考えられる 30～49 歳の実施率が低く、その中でも特に子育て世代の女性の実施率が低い状況です。

この世代は、メタボリックシンドロームなど生活習慣病のリスクの高い世代でもあることから、運動・スポーツの習慣化は重要です。

運動・スポーツをしない理由で最も多い回答は、「仕事や家事が忙しい」ことであり、働き方改革や子育て支援の充実など企業や社会での取組みと、仕事や家事を行いつつ運動・スポーツに参加しやすい環境と機会の提供、さらには本人の意識の転換と意欲の醸成を促す働きかけが必要です。

課題③ 高齢者・障がい者のスポーツ推進

高齢者の健康に対する意識は高く、多くの方が健康維持・増進のために運動・スポーツを行っており、仲間づくりを目的にスポーツを行う人も多く、運動・スポーツ活動は仲間との交流や生きがいを得る場にもなり、それは疾病・介護予防や健康寿命の延伸にも効果をもたらします。

一方で、「高齢のため」や「健康がすぐれない」などを理由に運動・スポーツを実施しない傾向が見受けられます。

このため、身近な場所で、年齢や健康状況に応じた運動・スポーツに、無理なく親しめる環境を整えるとともに、高齢者でも行いやすい運動・スポーツなどを普及していくことが必要です。

また、ノーマライゼーションの理念に基づく社会の実現に向けて、障がい者の運動・スポーツにおいても、これまでのリハビリテーション中心の活動から、生涯スポーツや競技スポーツへと、障がい者スポーツは活動の幅は広がりをを見せています。

本市では、「サンアビススポーツ塾」や「パラスポーツ体験教室」などを実施して、障がい者のスポーツ参加や障がい者と健常者がともに参加するスポーツの推進に取り組んでいます。

今後は、障がいの種別や程度に合わせたスポーツや、障がい者と健常者がともに楽しむスポーツ、

さらにはパラスポーツの普及に、より一層取り組むとともに、施設のバリアフリー化など障がい者がスポーツに参加しやすい環境の充実に取り組むことが必要です。

(2) スポーツ環境を整えるために

誰もが気軽にスポーツができる環境づくりに向けて、スポーツを支える人材の育成や施設の整備・充実、情報発信など、スポーツ環境の整備に向けた取り組みを整理します。

課題① スポーツ指導者の育成・充実

本市の地区体育協会、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などのスポーツ関係団体では、会員の減少や団体役員・指導者の高齢化、専門的な知識を持った指導者の不足などの問題を抱えています。

一方、本市には、プロスポーツチームである「いわきFC」や「日本パラサイクリング連盟事務局」、スポーツや健康の領域もカバーする「東日本国際大学」と「医療創生大学」があり、各団体等と連携したスポーツ振興やまちづくりに取り組んでいます。

今後は、学校体育やスポーツ団体活動の個々の運営体制や指導者育成の充実を図るため組織相互の連携・協力を進めていくことが必要です。

課題② スポーツ施設・設備の充実

スポーツ施設の中には老朽化している施設や耐震整備未実施の施設があり、維持管理・更新費用が増加する施設も見込まれます。

一方、新たな種目の増加や既存種目のルール・競技方法の変更などにより、施設や設備に求められる機能は多様化、高度化しています。

市民がスポーツの普及・振興のために最も望んでいるのは「施設・設備の充実」であり、学校を含むスポーツ施設の安全性・快適性・利便性の向上と学校開放や既存施設の有効活用により一層取り組むことが必要です。

また、本市は市域が広大なため、運動・スポーツの活動の環境は地区によって異なり、特に、市街地と中山間地域では、人口集積やスポーツ施設の整備状況、さらにはスポーツクラブなどの活動状況やスポーツクラブなどへの参加のしやすさが異なります。

日常的な運動・スポーツ活動には、居住地周辺での身近な環境や機会が必要であり、地区の実情に応じた運動・スポーツの展開が必要です。

課題③ 情報提供・発信の充実

市やスポーツ関係団体などは、市民に対して運動・スポーツの教室や大会・イベント等の情報を随時提供しています。

ライフステージやライフスタイルによって求める情報やわかりやすい情報が異なることを踏まえつつ、ICTを活用したタイムリーな情報提供やその人に適するプッシュ型の情報提供など、情報提供を充実することが必要です。

(3) 地域活性化につなげるために

地域資源を活用したスポーツツーリズムによる交流人口の拡大など、地域活性化に向けた取り組みを整理します。

課題① スポーツ合宿・イベントの誘致

本市は、温暖な気候をはじめ、海・山・温泉などの豊かな自然資源や、テーマパークなどの観光・文化交流施設、サイクリングルートやスケートボード広場のような他地域にはないスポーツ施設など豊富な地域資源を有しています。

今後は、他地域と差別化できる本市の地域資源を最大限活かしつつ、「いわき市スポーツコミッション」を中心とした体制を強化し、スポーツ合宿・イベントの誘致において、国内外から選ばれるよう促進することが必要です。

また、スポーツ大会・イベントの誘致は、スポーツの競技者・観戦者・関係者・ボランティア・マスコミなどを誘客し、地域に経済的な効果や交流の効果をもたらします。

その効果は規模が大きいほど大きく、直接消費などの直接効果だけではなく、関連産業などへ波及する間接効果ももたらします。

さらに、サイクリングなどの野外レクリエーションやスポーツ参加・観戦後の観光などによりスポーツと観光を掛け合わせたスポーツツーリズムを展開し、市民や市内事業者がその取組みに参画することにより、効果はさらに高まります。

今後は、スポーツ大会・イベントの誘致による効果を高めるため、観光など他分野と連携しつつ、市民や市内事業者が積極的に参画するスポーツ大会・イベントの誘致と受入体制づくりが必要です。

課題② 東京 2020 大会とRWC2019 の大会レガシーの継承

東京 2020 大会とRWC2019 を契機に、子どもから大人まで市民一人一人がスポーツの価値や意義に触れることで、多くの方がスポーツに親しむようになることは大会のレガシー（遺産）として重要です。

本市では、サモア独立国を相手国とした東京 2020 大会のホストタウン登録、RWC2019 に出場したサモア独立国ラグビー代表チームの本市での事前キャンプの実施という縁も活かしつつ、本市の復興・創生に向けた好機と捉えレガシー（有形・無形の承継すべき価値ある遺産）を創出することが必要です。

第3章

計画の基本方針と目標

1 基本方針

「スポーツでつながるまち いわき」

～ 健康で豊かなスポーツライフの実現とスポーツとともに生きるまちづくり ～

本市に関わる誰もが、世代・競技レベル・障がいの有無に関わらず、自分に合ったスポーツの楽しみ方を見つけ、スポーツが充実した生活の一部として定着し、生涯を通じて健康で生き生きと暮らすとともに、スポーツを通じて、ともに支えあい、主体的にそれぞれが参画し、新しい価値を生みだし地域の活性化を図る「スポーツ都市”いわき”」を実現するため、『「スポーツでつながるまち いわき」～健康で豊かなスポーツライフの実現とスポーツとともに生きるまちづくり～』を基本方針とします。

なお、その実現に向けては、「スポーツ都市宣言」の趣旨を踏まえながら取り組むこととします。

スポーツ都市宣言

わたくしたちいわき市民は、スポーツを愛し、健全な心とからだをつくり明るく住みよい豊かないわき市を築くため、ここに「スポーツ都市」の宣言をする。

1. みんなでスポーツを楽しみましょう。
1. スポーツを愛しすこやかな心とからだをつくりましょう。
1. 力をあわせて、スポーツの場と機会をつくりましょう。
1. スポーツを通じ、友情の輪を世界にひろげましょう。

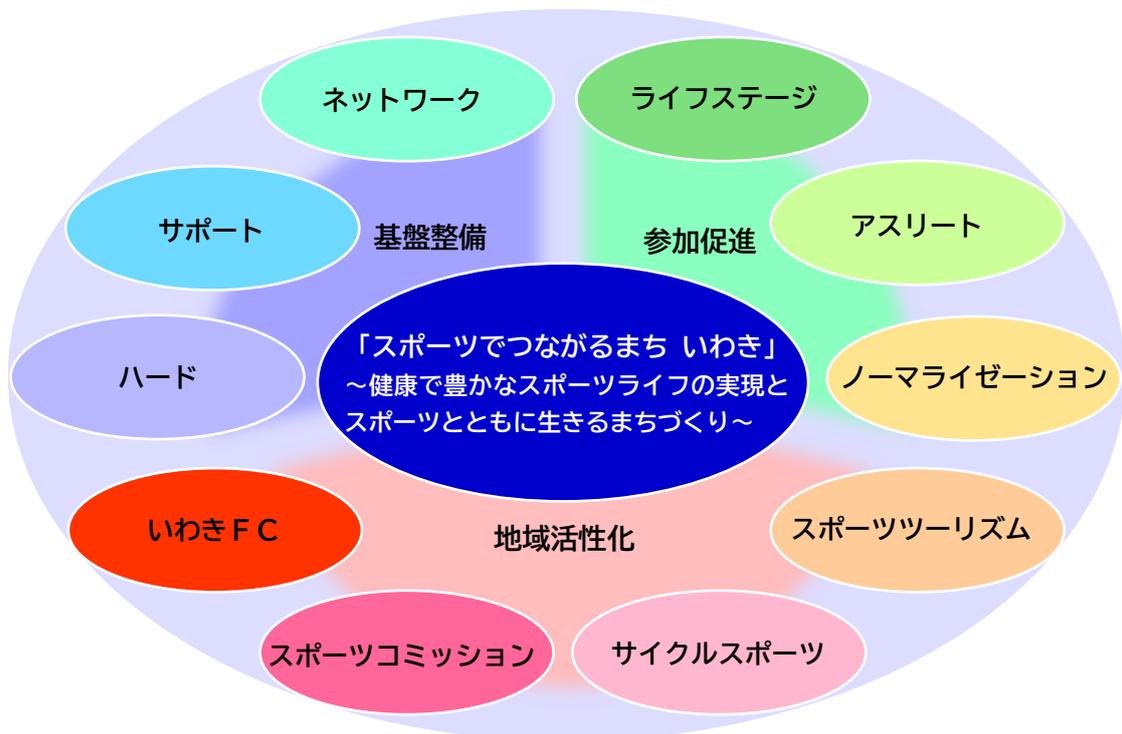
昭和61年3月31日制定

2 基本目標

2-1 基本目標

基本方針である『「スポーツでつながるまち いわき」～健康で豊かなスポーツライフの実現とスポーツとともに生きるまちづくり～』のもと、スポーツへの参加促進、スポーツの基盤整備、スポーツによる地域活性化の視点から、「ライフステージ」・「アスリート」・「ノーマライゼーション」・「ネットワーク」・「サポート」・「ハード」・「スポーツツーリズム」・「サイクルスポーツ」・「スポーツコミッション」・「いわきFC」の観点を設定し、各々の観点に基づく10の基本目標を位置付けます。

10の基本目標の観点



10の基本目標

参加促進	ライフステージ	1 生涯スポーツ活動の推進	市民の多様なニーズやライフステージに応じた子どもから高齢者まで、誰もがスポーツを楽しむことのできる生涯スポーツの推進やスポーツ教育の推進を図ります。
	アスリート	2 競技スポーツの推進	競技者の自己実現を支援するとともに、トップレベルの大会で活躍する競技者の輩出やトップアスリートとの交流により競技スポーツの推進を図ります。
	ノーマライゼーション	3 障がい者スポーツの推進	障がい者が気軽にスポーツ活動に取り組める環境や機会の提供、パラスポーツの推進により、共生社会の実現を目指します。
基盤整備	ネットワーク	4 スポーツに関わる人・まち・情報のネットワーク強化	市民や事業所、各種関連団体が連携した組織体制や情報提供体制を構築し、ネットワーク基盤を強化します。
	サポート	5 指導者・ボランティアの育成	市民ニーズに対応した質の高い指導者やボランティアなどのスポーツ活動を支える人材の育成・確保を図ります。
	ハード	6 施設の整備・管理運営の推進	安全で利用しやすいスポーツ施設の整備や利用者のニーズに対応した適切な管理運営を推進するとともに、既存ストックを有効に活用し、施設利用者のサービス向上を図ります。
地域活性化	スポーツツーリズム	7 地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進	本市の自然環境やスポーツ・レジャー施設等の地域資源を活かしたスポーツを「する」・「みる」・「ささえる」ことを目的とした旅行先としての魅力を高め、交流人口の拡大を目指します。
	サイクルスポーツ	8 自転車を活用した健康増進と地域資源を活用したサイクルスポーツの推進	自転車文化を地域に浸透させ市民の自転車利用により健康増進を図るとともに、市外からのサイクリスト誘客による総合的なサイクルスポーツを推進します。
	スポーツコミッション	9 スポーツ合宿・イベントの誘致による地域活性化	関係機関・団体との連携による受入体制を整備し、スポーツ大会の開催や合宿を誘致することにより、交流人口の拡大を図り地域経済活性化を推進します。
	いわきFC	10 いわきFCとの連携	市内唯一のプロスポーツチームであるいわきFCと連携して、スポーツが持つ力を最大限に活用した人・まちづくりを推進します。

2-2 目標指標

スポーツの「参加促進」と「基盤整備」に関する基本目標の達成に向けた目標指標、スポーツによる「地域活性化」に関する基本目標の達成に向けた目標指標を設定します。

本計画の目標期間である10年後の令和12年度までに、目標達成の方向性に基づく目標指標を達成することを目指しますが、5年後の中間指標の達成状況を評価して、必要に応じて取組みや目標指標を見直します。

(1) 参加促進と基盤整備に関する目標指標

指 標	目標達成の方向性	現 状	目標指標 令和12年度
① 週1回以上のスポーツ実施率	国の目標値を上回る	51.1%	65.0%
A 全国、体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点	全国平均値を上回る	小5 97.25 中2 100.32	101.0 101.0
B 生活習慣病での死亡率	全国平均値に下げる	心疾患 121.6 脳血管疾患 129.0	100.0 100.0
C 障がい者向けスポーツ教室・イベントの参加者数	着実に増やす	660人/年	950人/年
D スポーツ仲間づくりの支援システムの構築	市民に定着する	未整備	構築して運用 市民に定着
E スポーツボランティア実施率	着実に増やす	16.3%	20.0%
F スポーツ施設利用者の満足度	着実に向上させる	29.5%	50.0%

※ 現状値①・A・C・E・Fは令和元年度、Bは平成25～29年の数値

(2) 地域活性化に関する目標指標

指 標	目標達成の方向性	現 状	目標指標 令和12年度
② 市内観光入込客数（交流人口）の拡大	着実に増やす	7,555,942人/年	9,000,000人/年
A 市外からの合宿リピート率	着実に向上させる	39.3%	50.0%
B いわきFCに対する機運の醸成	着実に向上させる	57.1%	80.0%

※ 現状値②は令和元年、Aは平成28～30年度、Bは令和元年度の数値

※ 目標指標②の数値は、いわき市観光まちづくりビジョンに記載されている令和5年度目標値であるため、当該ビジョンの目標値に変更があった場合は、本計画の目標指標も変更します。

第4章 スポーツ施策の推進

1

基本目標

生涯スポーツ活動の推進

ライフステージ

市民の多様なニーズやライフステージに応じた子どもから高齢者まで、誰もがスポーツを楽しむことのできる生涯スポーツの推進やスポーツ教育の推進を図ります。

具体的な取組み

1-1 子どものスポーツへの関心の高揚と運動の習慣化による体力向上

スポーツを通じた健康づくりや体力の向上は、子どもたちの心身のバランスのとれた発育・発達に不可欠であることから、スポーツの楽しさを体験できる場を提供し、子どもたちが積極的に運動・スポーツに親しみながら、生涯にわたる豊かなスポーツライフを形成する習慣や意欲、能力を育成することに努め、子どもの体力向上を促進するため、学校体育や運動・部活動など総合的な取組みを進めます。

1-2 ビジネスパーソンや女性などのライフスタイルとともにあるスポーツへの参加支援

仕事や家事、育児など自分のライフスタイルに合ったスポーツを選択し、日常的にできるよう、様々なスポーツに参加できるような機会を提供します。

1-3 高齢者が健康で生きがいをもって暮らせるスポーツ活動の促進

高齢者が健康で生きがいをもって暮らせるように、施設のバリアフリー化も含めて、身近な地域で運動・スポーツに親しめる環境を整えるとともに、身体機能の低下に加え、持病を抱えていることも多い高齢者に配慮した運動・スポーツやレクリエーションの普及・啓発を促進します。

1-4 多くの市民が参加・参画するスポーツイベント・教室の開催

市民一人ひとりが、それぞれのライフステージに応じて自分に合った運動・スポーツを発見する機会として、また、楽しさや爽快感等を感じてスポーツの素晴らしさを心や体で知る機会として、さらには、日頃の練習の成果を試す場として、スポーツ推進委員などスポーツ関連団体が連携して、スポーツイベント・教室の開催を推進します。

また、参加者同士や地域住民等の交流を促進し、市民の体力向上とスポーツの振興を図るため、学校・家庭・地域の連携のもと、公民館及び地域団体等のスポーツイベントの開催を推進します。

1-5 オンライン開催など多様な方法によるスポーツイベント・教室の推進

市域が広くスポーツ施設へアクセスしにくい状況や仕事や家事・育児などの時間制約で参加しにくい状況などを克服しつつ、多くの市民がスポーツに参加できるように、生活様式へのICTの普及を活かしたオンライン開催など、多様な方法によるスポーツイベント・教室の開催を推進します。

1-6 総合型地域スポーツクラブなど地域におけるスポーツの場の充実と運営体制の強化

地域の実情やニーズに応じたスポーツ活動を充実するため、総合型地域スポーツクラブや地区体育協会が持続的に運営できるように、人材の育成・確保、組織運営体制の強化を推進します。

1-7 スポーツに対し社内外で積極的な取組みをしている企業の支援

従業員の健康管理や運動・スポーツへの参加の促進に積極的に取り組む企業や、地域の運動・スポーツの振興に協力する企業などに対して、効果的に取り組む方法の情報提供や企業間の交流・連携などの支援を行います。

1-8 既存スポーツの持続と新しいスポーツの普及の支援

既存スポーツの持続と、エクストリームスポーツなど新しいスポーツの普及により、多様な種目を市民に提供し、市民の関心・適性に応じた運動・スポーツへの参加を促進します。



画像掲載

競技者の自己実現を支援するとともに、トップレベルの大会で活躍する競技者の輩出やトップアスリートとの交流により競技スポーツの推進を図ります。

具体的な取組み

2-1 小・中・高生への一貫指導体制による競技力の向上

全国大会等で活躍する競技者の育成を目指して、個人の特性や発育・発達段階に応じた小・中・高生への一貫した指導体制を、市体育協会や各種競技団体等と連携して持続的に取組みます。

2-2 ハイレベルなスポーツ大会への競技者の派遣支援

市民の競技力向上に対する気運を高めるとともに、全国大会やオリンピック・パラリンピック、国民体育大会（令和5年からは「国民スポーツ大会」に名称変更）などのハイレベルな大会へ出場するため、市体育協会などの競技団体や県と連携しながら選手・団体等の支援を推進します。

2-3 トップレベルの競技スポーツに触れる機会の充実

プロスポーツ等のレベルの高いスポーツに触れる機会の創出などにより、市民のスポーツへの関心・興味を高め、スポーツに親しむ機会を増やすことでスポーツ人口を増やし、競技力の向上を支援していきます。

2-4 スポーツ団体の育成・支援と団体間連携の促進

効果的なスポーツ推進をさらに進めるために、市体育協会をはじめ各種競技団体や総合型地域スポーツクラブ、各スポーツ少年団などのスポーツ団体の持続的な運営を育成・支援するとともに、互いの連携を強化していきます。

画像掲載

障がい者が気軽にスポーツ活動に取り組める環境や機会の提供、パラスポーツの推進により、共生社会の実現を目指します。

具体的な取組み

3-1 障がい者の身近な生涯スポーツの普及・支援

障がい者の健康づくり・自立や社会参加を促進するため、身近な場所で気軽にスポーツ活動に取り組むことができるよう、参加しやすいスポーツ教室等の充実や、障がい者スポーツ団体・指導者の育成・支援、施設のバリアフリー化に取り組めます。

3-2 パラスポーツ振興による競技者の育成と共生社会の実現

本市におけるパラスポーツ競技者の育成を目指し、福祉関連機関や特別支援学校等と連携した競技者の発掘・育成、指導者の育成・確保、障がい者用スポーツ用具や施設の整備に取り組むとともに、市民のパラスポーツへの理解を促進し共生社会の実現に向けて取り組めます。

3-3 日本パラサイクリング連盟との連携

日本パラサイクリング連盟の事務局が本市に所在することや、「いわき平競輪場」に「いわき七浜海道」など、本市のサイクルスポーツ資源を活かして、パラサイクリングの競技者の育成や普及、パラサイクリングの大会やイベント・合宿の誘致に取り組めます。



画像掲載

市民や事業所、各種関連団体が連携した組織体制や情報提供体制を構築し、ネットワーク基盤を強化します。

具体的な取組み

4-1 市民の「する」・「みる」・「ささえる」スポーツ仲間づくりの支援

スポーツを続けるためには、多くの仲間と交流し、競い合い、励ましあい、みんなが楽しさや喜びを分かち合うことが大切であり、スポーツを通じた人と人との交流や地域内の交流を促進することを支援します。

4-2 大学や関連する他分野団体、他の自治体組織との連携・協力の促進

大学の運動・健康に関する研究成果の活用や部活動との連携、福祉・健康・医療・観光など他分野の団体との連携、福島県や近隣市町村、友好都市などとの連携など、多様な団体との連携・協力によるスポーツ振興に取り組めます。

4-3 民間企業とタイアップしたスポーツ事業展開など官民連携の促進

プロチームや実業団の競技団体、民間スポーツクラブやスポーツ関連企業などとのタイアップにより、相乗効果のある官民連携によるスポーツ振興に取り組めます。

4-4 情報を伝えたい対象への伝わりやすい方法による情報提供

市民に様々なスポーツ機会を提供するためには、市民のライフステージやライフスタイルを考慮して市民が求める情報をわかりやすく、迅速に知らせる必要があることから、ICTを活用しつつ確実な情報提供の充実に取り組めます。

画像掲載

市民ニーズに対応した質の高い指導者やボランティアなどのスポーツ活動を支える人材の育成・確保を図ります。

具体的な取組み

5-1 スキルの高いスポーツ指導者の育成・確保

高齢化等を背景に指導者が不足しているなか、各競技団体と連携しながら、民間企業や大学などの専門知識を生かした講習会の実施などを通じて、多様化する市民のスポーツニーズへの対応や、優れた競技者の育成のために、スキルの高い指導者の育成を図るとともに、新たな指導者の確保に取り組めます。

5-2 スポーツボランティアの参加意識の醸成と育成・確保

本市がスポーツ大会やイベントの誘致をはじめ、スポーツを振興していくためには市民のスポーツボランティアへの参加率を高めていくことが必要であることから、ボランティアの活動体制の整備や活動内容等の重要性、必要性などの啓発に努めるとともに、市民がボランティア活動に参加しやすいような仕組みづくりやネットワークの構築に取り組めます。

5-3 市民ぐるみでスポーツを「ささえる」仕組みづくり

スポーツ団体が先導しつつ、多くの市民や企業なども参加して、スポーツを「ささえる」仕組みづくりに取り組めます。



画像掲載

安全で利用しやすいスポーツ施設の整備や利用者のニーズに対応した適切な管理運営を推進するとともに、既存ストックを有効に活用し、施設利用者のサービス向上を図ります。

具体的な取組み

6-1 施設の現状や利用状況を踏まえたスポーツ施設や設備の整備・充実と集約・機能複合化

新たな種目が増え、ルール等も変化する中、施設の現状や利用状況を踏まえたスポーツ施設や設備の整備・充実を図るとともに、いわき市公共施設等総合管理計画に基づき、施設の長寿命化、集約・機能複合化による効率的な施設運営に取り組めます。

6-2 利用者のニーズに応じつつICTの活用や民間活力などによる効率的な施設の管理運営

スポーツ施設の新改築、運営方法の見直しにあたり、利用者のニーズに応じつつ、ICTの活用やコンセッションをはじめとしたPPP/PFI等の民間活力により、柔軟な管理運営や、スポーツ施設の魅力や収益力の向上に取り組めます。

6-3 学校（廃校を含む）・公民館・公園施設等の既存施設の有効活用

運動・スポーツが気軽にできる場として、身近な地域の学校（廃校含む）・公民館・公園等の公共施設を有効活用できるよう推進します。

画像掲載

地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進

本市の自然環境やスポーツ・レジャー施設等の地域資源を活かしたスポーツを「する」・「みる」・「ささえる」ことを目的とした旅行先としての魅力を高め、交流人口の拡大を目指します。

具体的な取組み

7-1 本市の自然環境・地域資源を活かしたスポーツツーリズムの推進

本市の温暖な気候や海・山・温泉などの豊かな自然資源とテーマパークや水族館などの観光・文化交流施設を活かし、サイクルスポーツやサーフィン・スケートボードなどのエクストリームスポーツや野外レクリエーション等スポーツを目的とした観光誘客を推進します。

7-2 大会やスポーツイベントの開催による交流人口拡大

市内スポーツ団体が主催する市外のスポーツ団体等を交えた独自大会の開催を支援するとともに、スポーツ団体が持つ中央競技団体との人的つながりを活かしたトップスポーツ公式戦や、大規模イベント等を誘致することで、様々なスポーツイベントの開催地として、本市の観光・文化芸術資源も結び付けてブランドイメージの向上を図るとともに、交流人口の拡大を目指します。

7-3 「いわきサンシャインマラソン」との連携

参加者の評価が年々高まり東北を代表する市民マラソンに成長した「いわきサンシャインマラソン」との連携を強化し、市民のスポーツ参加の促進と交流人口の拡大に取り組めます。



画像掲載

自転車文化を地域に浸透させ市民の自転車利用の推進を図るとともに、市外からのサイクリスト誘客による総合的なサイクルスポーツを推進します。

具体的な取組み

8-1 安全で快適なサイクリング環境の整備

「サイクルスポーツのまち」として、市民が環境にやさしく、健康づくりに効果をもたらす自転車を日常的に使うことを促進しつつ、「いわき市自転車活用推進計画」に基づく安全で快適なサイクリング環境の整備を推進します。

8-2 自転車利用の推進

市民が自転車を利用するきっかけづくりや健康増進・体力向上を図るため、世代ごとの教室・市民サークルなどへの支援プログラムの充実に努め、多くの市民が気軽にサイクルスポーツに親しめる機会を提供します。

8-3 自転車通勤の推奨

市内の事業所等に対し、従業員の健康増進、通勤コストの削減など、事業所が受ける恩恵の理解を促すことで自転車通勤を推奨する事業所の増加を目指した取組みを推進します。

8-4 効果的な情報発信・収集

生活習慣病予防やダイエットへの効果など健康面における自転車利用のメリットや、スポーツクラブや民間企業等における健康増進に資する自転車利用に関する事例及び効果、さらには、国内外の観光誘客を推進するため、関係団体や観光・交通事業者などと連携して情報の収集・発信を行います。

8-5 サイクルスポーツ資源を活用したツーリズムの推進

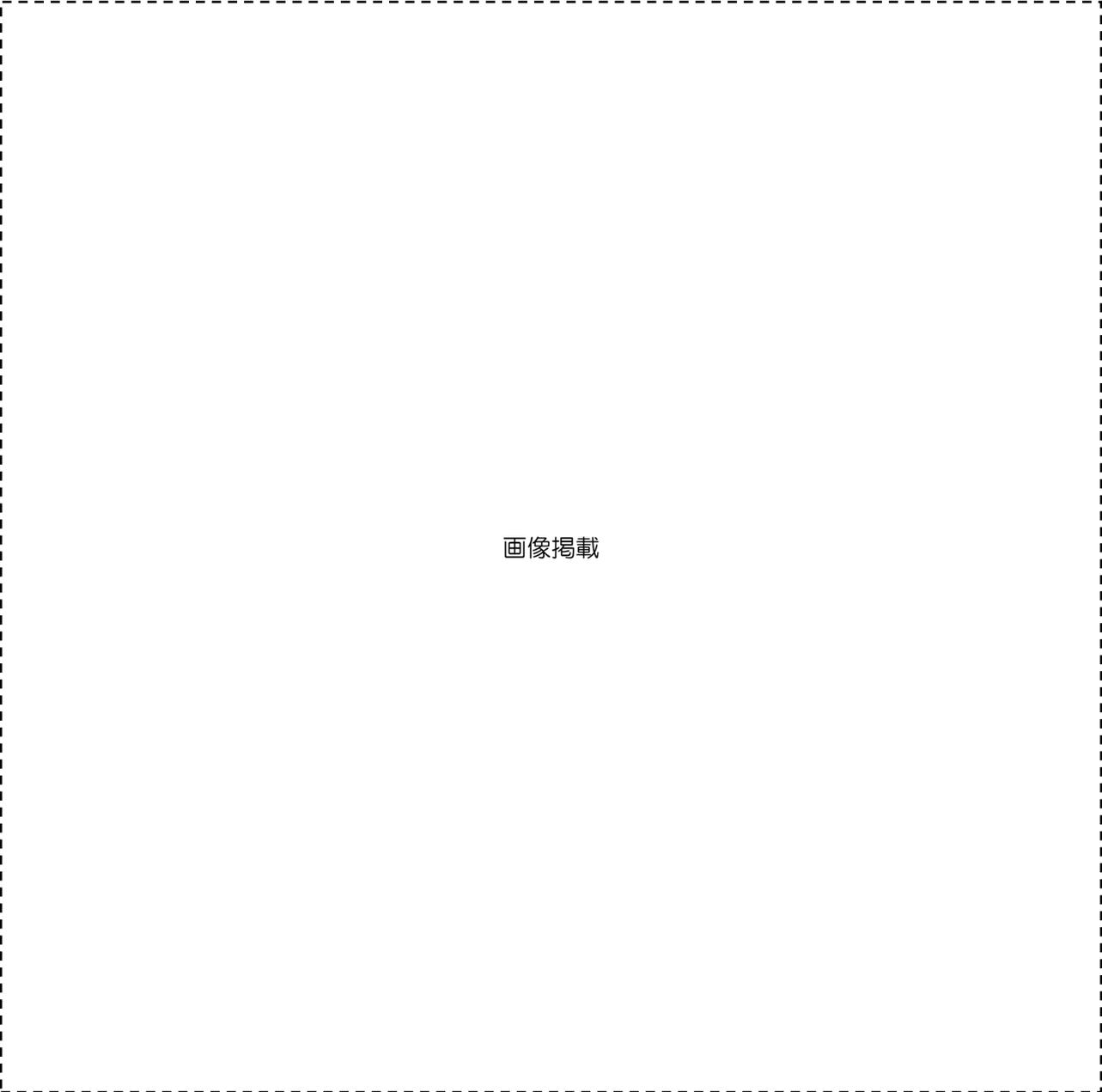
「サイクルイベント in いわき」などのサイクルイベントと連携するとともに、いわき七浜海道やいわき平競輪場などの施設も活用して、交流人口の拡大と「サイクルスポーツのまち」としての情報発信に取組み、サイクルツーリズムを推進します。

8-6 「いわき七浜海道」のブランドイメージ向上の取組み

「いわき七浜海道」を、国が推奨するモデルルートやナショナルサイクルルートの指定に向けて、「いわき七浜海道」の延伸を視野に入れた隣接自治体との広域連携や認知度向上につなげる取組みを推進します。

8-7 サイクリストの拠点づくりと受入環境の整備

いわき七浜海道沿線の各サイクルステーションに加えて、市内外のサイクリストが気軽に立ち寄れる交流の場を創出し、自転車文化の育成・発信により一層努めるとともに、サイクリングロードを楽しむ観光客に本市の魅力をより感じていただくため、休憩場所やトイレ・飲料水等を提供し、サイクリストをおもてなしする協力店（「サイクリストっぽ」）、サイクルコースや立ち寄りスポット等をアプリで案内する「自転車 NAVITIME」の充実を図ります。



画像掲載

スポーツ合宿・イベントの誘致による地域活性化

関係機関・団体との連携による受入体制を整備し、スポーツ合宿・イベントを誘致することにより、交流人口の拡大を図り地域経済活性化を推進します。

具体的な取り組み

9-1 本市の自然環境等の特性を活かしたスポーツ合宿の推進

本市の温暖気候と首都圏などからのアクセス環境の良さをアピールしながら、市外スポーツ団体が合宿するために必要な各種手続き等の調整事務を軽減し、合宿が円滑に実施できるよう支援することで、合宿リピート率の向上に努めます。

9-2 交流人口拡大を地域活性化につなげる仕組みづくり

スポーツ合宿・イベントの誘致により、湯本温泉などの宿泊施設に、宿泊需要を創出し地域経済活性化につなげるため、市内スポーツ団体と経済団体が一体となった受け入れ体制の整備を目指したスポーツコミッションの機能強化に取り組めます。

9-3 新舞子ヴィレッジを活用した合宿プランの推進

宿泊施設とスポーツ施設が併設された新舞子ヴィレッジの機能を最大限に活用し、パラスポーツを含めた総合的なスポーツ合宿誘致に取り組めます。

9-4 東京 2020 大会と RWC 2019 のムーブメントの継承

東京 2020 大会と RWC 2019 を契機に、子どもから大人まで市民一人一人がスポーツの価値や意義を理解し、身近なスポーツに触れることで、多くの市民がスポーツに親しむ機会が増える大会レガシー（遺産）として継承していきます。



画像掲載

市内唯一の地域密着型プロスポーツチームであるいわきFCと連携して、スポーツが持つ力を最大限に活用した人・健康・まちづくりを推進します。

具体的な取組み

10-1 健康増進への活用

いわきFCパークの機能（クリニック・リハビリ・トレーニング）を活用し、いわきFCが持つ最先端のスポーツ医学のノウハウを地域に還元することで、地域医療の充実や健康増進につなげます。

10-2 「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」との連携

いわきFCが掲げるスポーツの力を最大限に活用したまちづくりに共感した市内の様々な団体が参画している「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」と連携し、市民のスポーツへの興味や関心を高めるとともに、ホームタウンとしての機運醸成を図りながら、スポーツを通じたまちづくりを推進します。

10-3 双葉郡の自治体との連携

いわきFCのホームタウン拡大とともに、双葉郡自治体と連携した事業展開により、広域連携を図りながらスポーツを通じたまちづくりを推進します。

10-4 シティセールスの強化

いわきFCの公式戦に合わせたシティセールスを、年間をとおして強化し、本市の認知度向上を図ります。



画像掲載

第5章 計画の進行管理

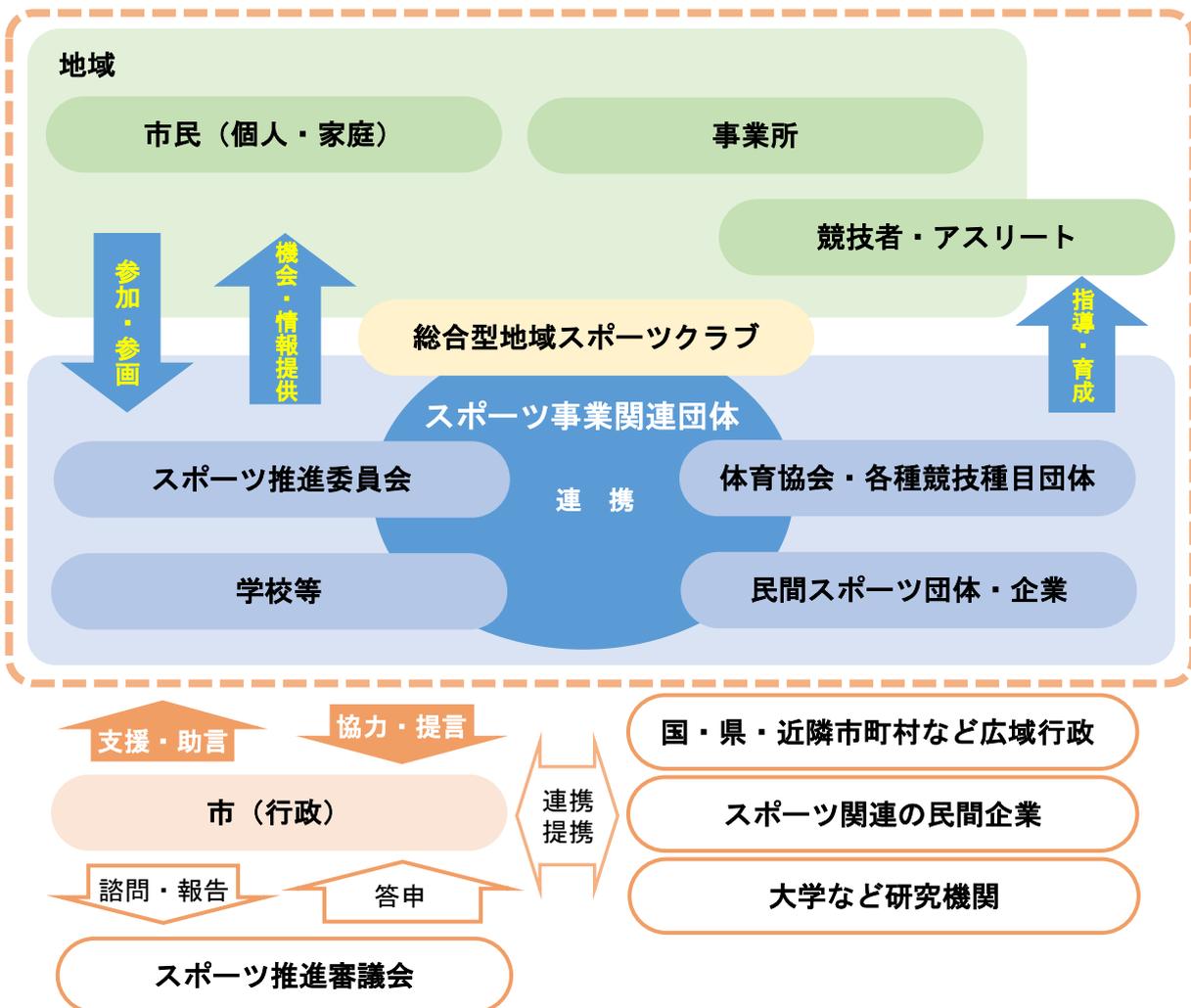
1 スポーツ推進に向けた主体と役割

市民（個人・家庭・地域）・民間事業者・学校・スポーツ関係団体や関係機関及び市が、各々の役割を果たしつつ、多様な主体と相互に連携して「協働」による取組みを積極的に実践します。

近隣市町村などとの広域的な連携を進めるとともに、スポーツクラブやスポーツ関連企業とのタイアップによるスポーツの推進に取り組めます。

スポーツは保健・福祉・教育・観光など多様な分野と密接に関わっていることから、全庁的な協力体制のもと各種施策を展開し、総合的・効果的に計画の推進を図ります。

関係主体と連携のイメージ



関係主体の主な役割

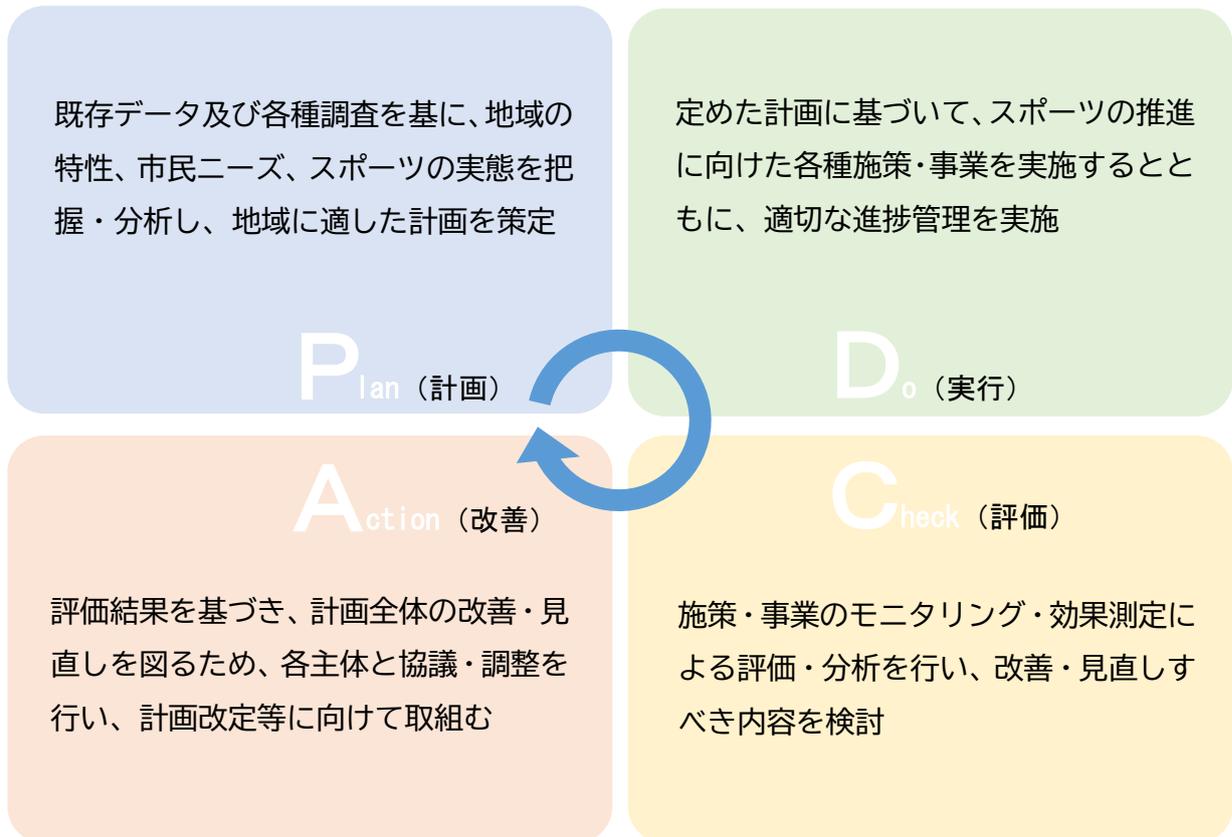
No.	主 体	役 割
1	地 域	○都市部や中山間地域の实情に応じた健康づくり・ スポーツ推進活動 ○スポーツを通じた地域コミュニティの形成・充実
2	市 民（個人・家庭）	○「する」・「みる」・「ささえる」スポーツへの積極的参加 ○健康づくりへの主体的取組み
3	学校等	○児童生徒のスポーツの推進 ○地域への施設開放による協力
4	事業所	○従業者のスポーツ参加の支援・従業者の健康管理 ○スポーツ事業の支援
5	民間スポーツ団体・企業	○指導者の派遣やノウハウの提供 ○活動の場の提供
6	競技者・アスリート	○競技力の向上 ○次世代競技者へのサポート
7	市体育協会 各種競技種目団体	○地域でのスポーツ事業の実施 ○市民の競技力の向上 ○スポーツ少年団活動の推進 ○スポーツ大会等の開催支援
8	市スポーツ推進委員会	○スポーツの普及活動 ○スポーツに関する指導、助言
9	総合型地域スポーツクラブ	○スポーツ活動とスポーツを通じた交流の促進 ○市民に身近で継続的なスポーツの場の提供
10	市スポーツ推進審議会	○スポーツ基本法に基づくスポーツ推進に関する 重要事項の審議
11	市（行政）	○市民ニーズの的確な把握・分析 ○スポーツ推進策の企画・立案 ○スポーツ団体への支援 ○スポーツ大会の開催支援 ○スポーツ施設の整備・充実

2 計画の進行管理体制

本計画は、PDCA サイクル（Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)）の継続的改善手法により進行管理します。

また、目標指標の達成状況を定期的に確認・評価するとともに、市民ニーズの把握に努めつつ、いわき市スポーツ推進審議会の意見等を踏まえて改善していきます。

PDCAサイクルによる計画進行管理



用語の解説 (五十音順、アルファベット順)

いわきサンシャインマラソン

県内初の日本陸連公認コースによるフルマラソンを中心とした大会です。第1回は平成22年から始まり、平成30年の第9回には11,160人のエントリーのうち、5,970人は市外からエントリーしています。

いわき市体育協会

13の地区体育協会と35の競技種目団体、中学校・高等学校体育連盟、スポーツ少年団の51団体（令和2年度）で組織されており、年間を通して各種スポーツ大会・教室等の開催や選手強化事業の実施など、本市のスポーツ振興の中心的な役割を果たしています。

いわき市スポーツ推進委員

スポーツ基本法に基づき、地域スポーツの推進役として、地域や社会体育団体等からの推薦により市が委嘱しており、任期は2年で、令和2年12月1日現在、68名が活動しています。（定員74名）地域のスポーツ振興を図るため、市民に対してスポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導・助言を行い、さらにはスポーツ振興の企画・コーディネーターとして幅広い活動をしています。

いわきFCのU-18・U-15・Girls U-15

Uはアンダー（Under）の略であり、U-18は18歳以下、U-15は15歳以下、Girls U-15は15歳以下の女子のチームです。

エクストリームスポーツ

アクションスポーツやアドベンチャースポーツなどとも呼ばれ、マウンテンバイクやボルダリングなどスピードや高さなどの危険やスリルを伴い、大自然や都市の公共スペースなどで行われるニュースポーツの一種です。特に、音楽やファッションを取り込んで若者を中心とするサブカルチャーを形成しています。

オルタナティブスポーツ

身体能力の高い参加者が手を抜くなどプレイの楽しさや競技性を損なわずに多様な身体能力とニーズを持つ参加者全員が能力を出し切るとともに楽しめるスポーツの概念です。

コンセッション

施設の所有権を移転せず、民間事業者インフラの事業運営に関する権利を長期間にわたって付与する事業方式です。

シティセールス

都市（地域）の売り込みのことで、現在、全国各地で盛んに行われている活動です。

シルバーピアード

老人クラブ連合会が主催する高齢者スポーツ大会です。11 種目の競技を地区対抗で行い合計得点を競い合うほか、いわき盆踊り等のアトラクションが行われています。

シルバーリハビリ体操指導士

地域において介護予防のための、シルバーリハビリ体操を普及させるボランティア活動実践者であり、指導者です。

新体力テスト

国民の体位の変化、スポーツ医・科学の進歩、高齢化の進展等を踏まえ、体力・運動能力調査を全面的に見直して、現状に合ったものとしたものであり、平成 11 年度の体力・運動能力調査から導入されています。小学校・中学校ともに、「握力」・「上体起こし」・「長座体前屈」・「反復横とび」・「20m シャトルラン」・「50m走」・「立ち幅とび」・「ボール投げ」の8項目を実施します。

スポーツイベント

スポーツイベントには、スポーツ合宿・大会なども含まれています。

スポーツ基本法

スポーツ基本法は、昭和 36 年に制定されたスポーツ振興法（昭和 36 年法律第 141 号）を 50 年ぶりに全部改正し、スポーツに関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めるものです。

スポーツコミッション

交流人口の拡大や地域の活性化を図るため、観光関係団体等と連携しながらスポーツ合宿等の一元的な受付窓口を設置し、スポーツ施設や宿泊先の紹介や手配など、主催団体の各種手続きの負担を軽減するためのサービスを提供しながら、スポーツ大会・合宿の誘致を推進するものです。

スポーツ少年団

地域を基盤として「スポーツによる青少年の健全育成」を目的に、スポーツを中心としたグループ活動を行う団体で、ジュニア期に必要な幅広い分野での様々な活動を通じて、仲間との連帯や友情、さらにはその過程の中で協調性や創造性などを育み、人間性豊かな社会人としての成長（青少年の健全育成、人間形成）に大きな役割を果たしています。

本市では、令和 2 年 12 月 1 日現在、17 競技種目、121 の単位団に 2,273 名の団員が活動しています。

スポーツツーリズム

スポーツを「する」・「みる」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「ささえる」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものです。

スポーツ都市宣言

昭和61年3月、平成7年の国民体育大会「ふくしま国体」を控え、スポーツに対する市民の関心も一段と高まりつつある中、市民がスポーツへの理解と関心を深め、スポーツを愛し、健全な心と体をつくり、明るく住みよい豊かないわき市を築くため宣言したものです。

スポーツボランティア

地域のスポーツ団体やスポーツクラブ、あるいは各種スポーツ大会・イベント等において、スポーツに関する高い知識や技能、時間などを進んで提供し、その運営や指導等の活動を支えるボランティアです。

総合型地域スポーツクラブ

地域住民が主体的に運営するスポーツクラブで、複数の競技種目があり、身近な地域で子どもから高齢者まで、また、初心者から競技者まで、誰もが自分の年齢や体力・興味・技術レベルなどに応じて気軽に活動できるスポーツクラブです。

体力・運動能力調査

小学生から高齢者までの国民の体力・運動能力の現状を明らかにするため、最初の東京オリンピックが開催された昭和39年以来、毎年実施されている調査です。

地域ブランディング

経済産業省の定義では、地域発の商品・サービスのブランド化、地域のイメージのブランド化を結び付け、好循環を生み出し、地域外の資金・人材を呼び込むという持続的な地域経済の活性化を図ることとされていますが、地域への誇りや愛着の創造に主眼を置くことで、より持続的な地域の発展を目指すという考えも含まれます。

東京2020大会

第32回東京2020オリンピック競技大会、東京2020パラリンピック競技大会の略称（通称は東京2020オリンピック競技大会、東京2020パラリンピック競技大会）。なお、両大会を合わせた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、本市の統一的表現として使用している。

ノーマライゼーション

障害のある人が障害のない人と同等に生活し、ともにいきいきと活動できる社会を目指すという理念のことです。

ビジネスパーソン

従来、ビジネスマンやビジネスウーマンと表現されていた働く人を性差せず総称するものです。

標準化死亡比

人口 10 万人あたりの死亡者の割合である死亡率を各地域の年齢構成の違いを除いて比較するための指標です。

プッシュ型の情報提供

必要な情報をユーザーの操作を伴わず、提供側から自動的に配信する情報提供のことです。

ホストタウン

東京 2020 大会をはじめ、RWC2019 等の国際大会に向けて、参加する国・地域とのさまざまな交流を図り、地域を活性化させる取組みを行う地方公共団体を支援する国の取組みのこと。ホストタウンを結んだ自治体と大会参加国は、国際大会の事前キャンプの実施や、スポーツ・文化交流を行います。

ユニバーサルスポーツ

すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインの考え方をスポーツに導入し、障がい者と健常者がともにプレイするスポーツの概念です。

ICT

Information & Communications Technology の略であり、情報や通信に関連する科学技術の総称です。

PPP/PFI

PPPとは、Public Private Partnership の略であり、公共サービスの提供に民間が参画する手法を幅広く捉えた概念で、民間資本や民間のノウハウを活用し、効率化や公共サービスの向上を目指すものです。PFIとは、Private Finance Initiative の略であり、公共施設等の建設・維持管理・運営等を民間の資金・経営能力及び技術的能力を活用することで、効率化やサービスの向上を図る公共事業の手法のことです。

RWC

Rugby World Cup（ラグビーワールドカップ）の略です。

WBSC

World Baseball Softball Confederation（世界野球ソフトボール連盟）の略です。

資料編

1 計画策定の経緯

令和元年 11 月 28 日	第 1 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和元年 12 月 12 日 ～令和 2 年 1 月 24 日	スポーツの実施状況等に関するアンケート
令和 2 年 3 月 30 日	第 2 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和 2 年 7 月 27 日 ～令和 2 年 8 月 21 日	第 3 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会（書面会議）
令和 2 年 10 月 2 日	第 4 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和 2 年 11 月 27 日	第 5 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和 3 年 2 月 3 日	第 6 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和 3 年 2 月 10 日	いわき市教育委員会付議
令和 3 年 2 月 22 日 ～令和 3 年 3 月 8 日	パブリックコメント
令和 3 年 3 月 15 日 ～19 日	第 7 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会 ※調整中
令和 3 年 3 月 22 日 ～26 日	第 1 回いわき市スポーツ推進審議会 ※調整中

2 いわき市スポーツ推進計画検討委員会委員名簿

区 分	団体等名称	委員氏名	備 考
高等教育機関	東日本国際大学	福迫 昌之	委員長
スポーツ関係団体	いわき市体育協会	高羽 博樹	副委員長
	福島県エアロビック連盟	佐々木 喜栄子	
	いわき市スポーツ推進委員会	石井 文雄	
	(株)いわきスポーツクラブ	岩清水 銀士朗	
教育関係者 及び 関係行政機関	いわき地区高等学校体育連盟	佐竹 正徳	
	いわき市中学校体育連盟	吉田 信治	
	いわき市小学校長会	中野 直人	
	福島県いわき教育事務所	小松 和宏	
経済・観光団体	いわき商工会議所	酒井 比呂志	
	いわき経済同友会	波多野 和茂	
	(一社)いわき観光まちづくりビューロー	鹿崎 耕司	
その他	(株)L. A. P	伊藤 英雄	
	(一財)いわき市公園緑地観光公社	松本 守利	

3 スポーツの実施状況等に関するアンケートの実施概要

調査対象	18歳以上のいわき市民3,000名
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査期間	令和元年12月12日(木)～令和2年1月24日(金)
調査方法	郵送配布・回収
回答数	886件(回答率29.5%)

<回収状況>

	回答数	送付件数	回答率
男性	408件	1,462件	27.91%
女性	472件	1,538件	30.69%
不明	6件	—	—
合計	886件	3,000件	29.53%

	回答数	送付件数	回答率
18～29歳	70件	376件	18.62%
30～39歳	98件	369件	26.56%
40～49歳	150件	478件	31.38%
50～65歳	265件	735件	36.05%
66～79歳	232件	705件	32.91%
80歳以上	69件	337件	20.47%
不明	2件	—	—
合計	886件	3,000件	29.53%

地区	性別	回答数	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～65歳	66～79歳	80歳以上	不明
平	男性	122件 100.0%	11件 9.0%	11件 9.0%	19件 15.6%	38件 31.1%	32件 26.2%	11件 9.0%	0件 0.0%
	女性	149件 100.0%	13件 8.7%	21件 14.1%	24件 16.1%	53件 35.6%	32件 21.5%	6件 4.0%	0件 0.0%
小名浜	男性	87件 100.0%	2件 2.3%	10件 11.5%	16件 18.4%	24件 27.6%	27件 31.0%	7件 8.0%	1件 1.1%
	女性	91件 100.0%	8件 8.8%	9件 9.9%	23件 25.3%	28件 30.8%	18件 19.8%	5件 5.5%	0件 0.0%
	無回答	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%
勿来	男性	75件 100.0%	5件 6.7%	6件 8.0%	13件 17.3%	17件 22.7%	26件 34.7%	7件 9.3%	1件 1.3%
	女性	73件 100.0%	7件 9.6%	13件 17.8%	13件 17.8%	16件 21.9%	15件 20.5%	9件 12.3%	0件 0.0%
	無回答	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
常磐	男性	37件 100.0%	2件 5.4%	3件 8.1%	4件 10.8%	13件 35.1%	15件 40.5%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	48件 100.0%	7件 14.6%	6件 12.5%	8件 16.7%	14件 29.2%	11件 22.9%	2件 4.2%	0件 0.0%
	無回答	2件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	1件 50.0%	0件 0.0%
内郷	男性	28件 100.0%	3件 10.7%	2件 7.1%	6件 21.4%	8件 28.6%	9件 32.1%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	44件 100.0%	3件 6.8%	8件 18.2%	7件 15.9%	14件 31.8%	8件 18.2%	4件 9.1%	0件 0.0%
	無回答	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
四倉	男性	16件 100.0%	0件 0.0%	1件 6.3%	2件 12.5%	5件 31.3%	7件 43.8%	1件 6.3%	0件 0.0%
	女性	21件 100.0%	2件 9.5%	1件 4.8%	5件 23.8%	8件 38.1%	3件 14.3%	2件 9.5%	0件 0.0%
遠野	男性	6件 100.0%	1件 16.7%	1件 16.7%	1件 16.7%	1件 16.7%	1件 16.7%	1件 16.7%	0件 0.0%
	女性	6件 100.0%	1件 16.7%	0件 0.0%	1件 16.7%	2件 33.3%	2件 33.3%	0件 0.0%	0件 0.0%
	無回答	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%
小川	男性	6件 100.0%	1件 16.7%	0件 0.0%	0件 0.0%	4件 66.7%	1件 16.7%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	2件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
好間	男性	14件 100.0%	1件 7.1%	0件 0.0%	3件 21.4%	3件 21.4%	4件 28.6%	3件 21.4%	0件 0.0%
	女性	18件 100.0%	1件 5.6%	3件 16.7%	2件 11.1%	5件 27.8%	5件 27.8%	2件 11.1%	0件 0.0%
三和	男性	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	5件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 20.0%	2件 40.0%	2件 40.0%	0件 0.0%
田人	男性	2件 100.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	5件 100.0%	0件 0.0%	1件 20.0%	0件 0.0%	2件 40.0%	2件 40.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
川前	男性	4件 100.0%	1件 25.0%	0件 0.0%	1件 25.0%	1件 25.0%	1件 25.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	2件 100.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
久之浜・大久	男性	8件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	5件 62.5%	2件 25.0%	1件 12.5%	0件 0.0%
	女性	7件 100.0%	0件 0.0%	1件 14.3%	1件 14.3%	1件 14.3%	3件 42.9%	1件 14.3%	0件 0.0%
その他	男性	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%
	女性	0件 —	0件 —	0件 —	0件 —	0件 —	0件 —	0件 —	0件 —
不明	男性	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%

4 スポーツ施設の立地状況

本市には、主要なスポーツ施設が58施設あります。

各地区には、学校施設も含めて体育館やグラウンドなど一定の整備水準のスポーツ施設が立地していますが、野球場や陸上競技場などの規模の大きな施設は、平地区などの市街地に集中して立地しており、特に「21世紀の森公園」・「上荒川公園」・「新舞子ヴィレッジ」・「南の森スポーツパーク」に施設の集積が多い状況です。

スポーツ施設の位置図



スポーツ施設の一覧

区分	No.	施設名
体育館	1	上荒川公園総合体育館
	2	南部アリーナ
	3	平体育館
	4	新舞子体育館
	5	小名浜武道館
	6	勿来体育館
	7	関船体育館
	8	上三坂体育館
	9	下三坂体育館
	10	内郷コミュニティセンター
	11	いわきサン・アビリティーズ体育館
	12	企業交流館体育館
	13	田人おふくろの宿体育館
陸上競技場	14	いわき陸上競技場
	15	いわき陸上競技場補助競技場
庭球場	16	平テニスコート
	17	新舞子テニスコート
	18	南部テニスコート
	19	21世紀の森公園テニスコート
	20	小名浜港運動施設テニスコート
	21	田人おふくろの宿テニスコート
	22	金山公園テニスコート
	23	好間中央公園テニスコート
野球場	24	平野球場
	25	小名浜野球場
	26	いわきグリーンスタジアム
	27	南部スタジアム
	28	小名浜港運動施設ソフトボール場
市民プール	29	いわき市民プール
	30	新舞子ヘルスポール
	31	いわきゆったり館クアハウス

区分	No.	施設名
多目的グラウンド・市民運動場	32	新舞子フットボール場
	33	新舞子多目的運動場
	34	好間多目的広場
	35	泉町下川北緑地グラウンド
	36	泉町下川東緑地グラウンド
	37	仁井田運動場
	38	いわきグリーンフィールド
	39	いわきグリーンベース
	40	21世紀の森公園多目的広場
	41	21世紀の森公園ファミリースポーツガーデン
	42	平市民運動場
	43	小名浜市民運動場
	44	勿来市民運動場
	45	常磐市民運動場
	46	内郷市民運動場
	47	四倉市民運動場
	48	遠野市民運動場
	49	小川市民運動場
	50	田人市民運動場
	51	川前市民運動場
52	久之浜市民運動場	
53	下三坂運動広場	
弓道場	54	いわき弓道場
	55	勿来弓道場
	56	関船弓道場
その他	57	いわきサン・アビリティーズトレーニング室
	58	21世紀の森公園スケートボード広場

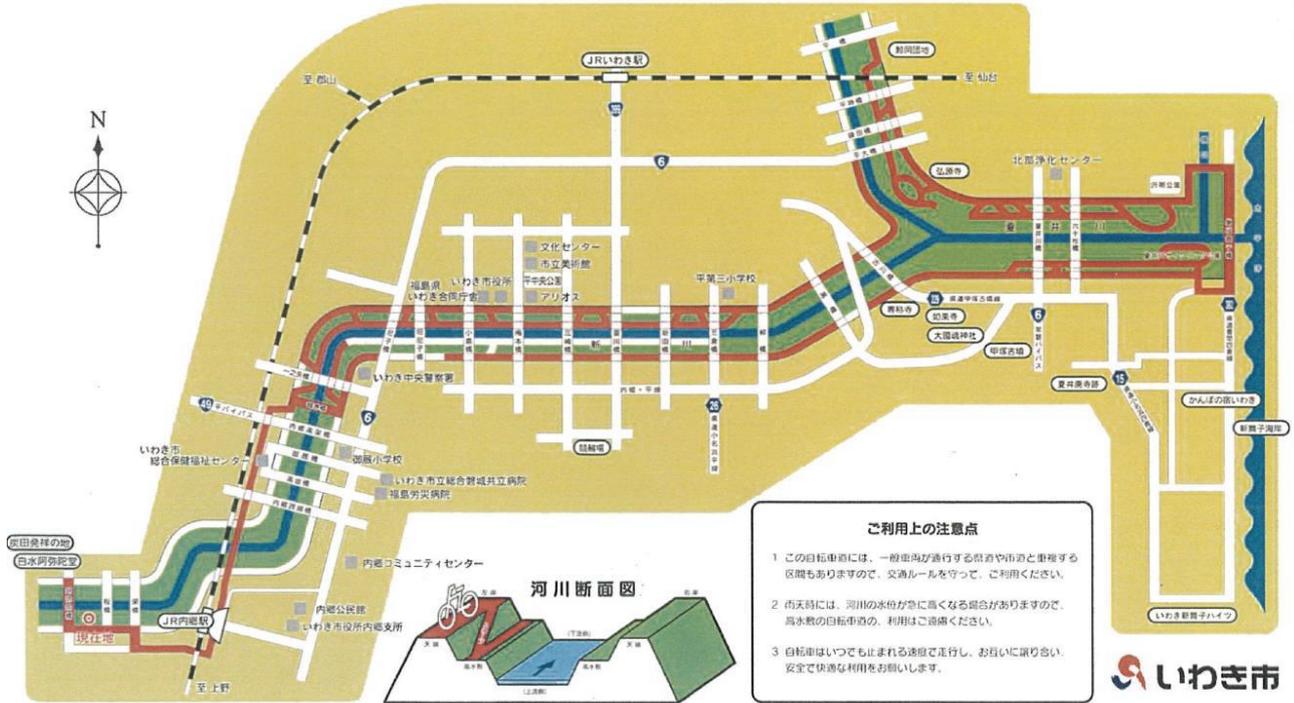
5 サイクルスポーツ関連

(1) 環境整備

① いわき市自転車道路網「新川・夏井川ルート」

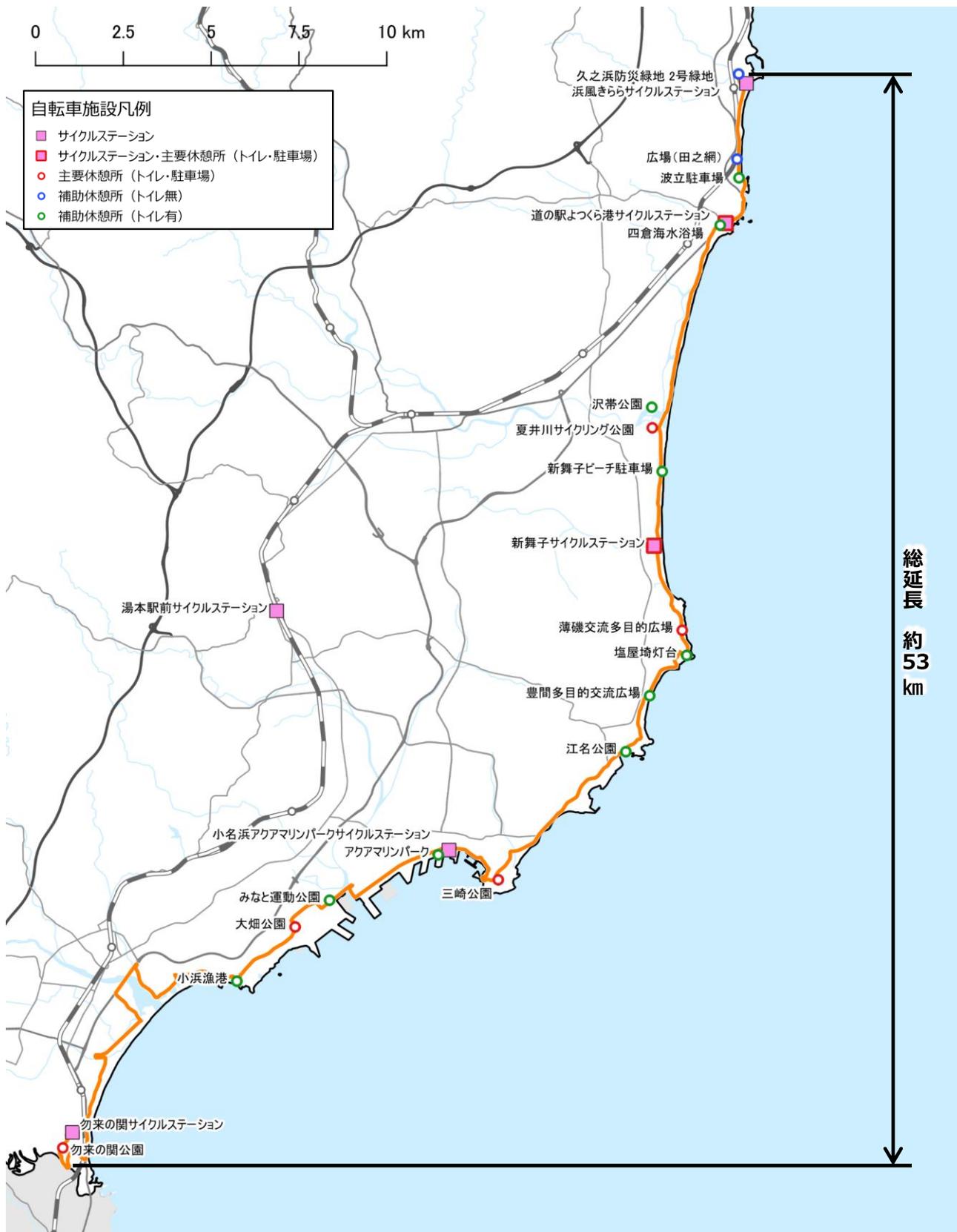
平成 22 年度に市内を流れる二級河川新川及び夏井川の河川空間、既存の国・県・市道を利用し「新川・夏井川ルート」を整備しました。

自転車道（新川～夏井川ルート）案内図



②いわき市自転車道路網「海岸線ルート」

白砂青松が広がる本市特有の美しい海岸線に沿って、復旧・復興事業により整備された防潮堤や既存の国・県道や市道などを活用し、自転車走行空間として整備する勿来の関公園から久之浜防災緑地までの総延長約 53km のサイクリングルートです。



③サイクルステーション

ステーション名	受付場所	時間	レンタサイクル 設置車両・台数
浜風きららサイクルステーション	浜風きらら	10:00～16:30	電動アシスト 2台
道の駅よつくら港サイクルステーション	道の駅よつくら港	10:00～16:30	電動アシスト 2台 電動アシスト三輪 1台
新舞子サイクルステーション	いわき新舞子ハイツ	9:00～16:30	クロス 4台 ロード 4台 タンデム 1台 こども用 2台
湯本駅前サイクルステーション	いわき湯本温泉旅館 協同組合事務所	10:30～16:30	電動アシスト 2台
小名浜アクアマリンパークサイクルステーション	小名浜美食ホテル	10:30～16:30	クロス 5台
勿来の関サイクルステーション	交流スペース <small>なっくる</small> 勿来	10:00～15:00	電動クロス 2台 電動アシスト 2台
レンタル料金			
○半日（3時間まで）：300円 ○1日：500円			
その他サービス			
<p>○サイクリングコース等の案内 ○自転車ラックの設置 ○休憩スペース・トイレ無料貸出 ○工具・空気入れ無料貸出 ※新舞子サイクルステーションは、セルフメンテナンススペースあり。</p>			

(2) サクリスト受入環境

①いわき新舞子ハイツのリノベーション事業

いわき七浜海道を活用したサイクルツーリズムの推進を目的に、同ルート沿線に位置する宿泊施設である「いわき新舞子ハイツ」にサイクルステーションを整備するとともに、宿泊施設をサイクリスト向けにリノベーションする事業を令和元年度に実施しました。



②民間宿泊施設の取組み

いわき駅前の民間宿泊施設（ホテル）においては、いわき七浜海道の整備を契機に、サイクリスト宿泊プランの創設やレンタサイクルの取組みを令和元年9月から開始しています。



(3) サクルステーション

レンタサイクルや工具・空気入れの無料貸出し、休憩スペース等が確保されたサイクルステーションを官民共創の体制で設置しています。

iwakiライド サクルステーション

半日(3時間まで): 300円 / 1日: 500円

ステーション名	茨城県 茨城町	茨城県 水戸市	茨城県 新舞子
茨城町	茨城町駅前	水戸駅前	新舞子駅前
水戸市	水戸駅前	水戸市駅前	水戸市駅前
新舞子	新舞子駅前	新舞子駅前	新舞子駅前

1. 予約・申し込み 2. 予約確認 3. 予約完了 4. 予約完了

IWAKI CYCLING BOURSE

市内サイクリングコース・観光スポット

お問い合わせ: 024-222-1111

お問い合わせ: 024-222-1111

(4) サイクリング情報発信状況

「いわきサイクリングマップ 2008」をベースに、いわき観光まちづくりビューローと連携し、ポケットサイズに折り畳みができる「いわきサイクリングマップ」及びスマートフォン等で使用可能な「自転車 NAVITIME」に掲載したコースを活用して、市内外に本市のサイクリング環境の紹介をします。



(5) 市内のサイクル施設

①夏井川サイクリング公園

夏井川サイクリング公園はいわき市自転車道路網「新川・夏井川ルート」の拠点施設で、サイクリングコースのほか、ターゲットバードゴルフコースが設置されています。



②いわき平競輪場

いわき平競輪場は昭和 26 年に開設された競輪場であり、競輪事業のほか、バンク開放日を設けることにより、市民が自転車競技を体験できる場として活用されています。





いわき市スポーツ推進計画

発行日 令和3年3月
発行者 いわき市 文化スポーツ室 スポーツ振興課
〒970-8686
福島県いわき市平字梅本 21 番地
TEL 0246-22-7553 FAX 0246-22-1285
MAIL:sports-shinko@city.iwaki.lg.jp